

研修みずれわ

Vol. **54** 2021
コロナに負けない
研修を！

歴史探訪 第一弾
『古都 奈良大和路を訪ねて』



地方共同法人

日本下水道事業団

Japan Sewage Works Agency

研修センター

Contents



写真：奈良県橿原市魅力創造部観光政策課提供
(藤原宮跡 コスモス畑の朝)

巻頭言	森岡 泰裕	日本下水道事業団	1
ご挨拶	畑 恵介	日本下水道事業団	2
新任のご挨拶	水津 英則	日本下水道事業団 研修センター	3
女性受講生から初の下水道課長就任 持続可能な下水道の未来に向かって	井上 洋子	山形県県土整備部下水道課	4
研修生だより	鎌田 邦夫	埼玉県川口市	6
	西村 千穂	三重県菰野町	7
	若狭 公一	公益財団法人埼玉県下水道公社	9
外部講師の視点	稲垣 武司	埼玉県さいたま市	10
	鈴木 宏一	千葉県千葉市	11
	福田 政昭	熊本県熊本市	12
	松島 修	東京都下水道サービス株式会社	14
	柳本 諭	日本工営株式会社	15
	大下 信子	株式会社西原環境	16
同窓会ニュース	長沼 輝伸	岩手県	18
「宮山福会」	大宮司 綾	宮城県松島町	19
「福島みずのわ会」	柳沼 彰広	福島県郡山市	21
「広島みずのわ会」	川本 秀春	広島県廿日市市	22
「山口みずのわ会」	友景 康浩	山口県防府市	24
「福岡みずのわ会」	田知行さなえ	福岡県福岡市	26
「みずのわ熊本会」	中山 哲真	熊本県熊本市	27
歴史探訪 第一弾 『古都 奈良大和路を訪ねて』	細川 長人	奈良県橿原市	30
研修センター職員紹介			32
日本下水道事業団研修センターの新型コロナウイルス感染拡大予防対策について			34
令和3年度JS研修センター研修計画調査等の集計結果について			36
下水道技術検定及び下水道管理技術認定試験について			41
研修センターの歩み			44
編集後記			巻末

巻頭言

新年を迎えて

日本下水道事業団
理事長 森岡 泰裕

泰裕



づく唯一の全国組織でもあります。

J S が設立された半世紀前、日本は下水道後進国と言われていました。それが、今では下水道普及率が8割に達しています。汚水処理普及の概成に近づきつつあるなか、「下水道ストックの効果的維持運営のために持続性向上や強靱化、有効活用を図る」時代になったのです。これからは、人口減少や老朽化の進行などに応じて、施設のマネジメントやリノベーション、場合によってはダウンサイジングにも取り組まないとはいけません。そして、昨今の集中豪雨対策としては、ポンプ場などのさらなるハード整備も必要でしょう。また、下水道が有する資源・エネルギーの有効活用は地球環境の視点からも推進が不可欠です。

こういった諸課題への処方箋は、地域ごとに異なりますし、PPPなど地域に

とってこれまで経験のない取り組みも求められます。また、下水道は、多岐にわたる総合的技術が求められる分野です。汚水の収集・処理は受益者から使用料をいただく公営企業の側面がある一方、浸水防除や公共用水域の水質保全是税財源で賄う公共事業の側面を有しているなど、財政的なバランスをとることも不可欠です。

昨年11月に理事長を拝命いたしました。みずのわ読者の皆さま、どうぞよろしくお願いいたします。

日本下水道事業団(J S)は、地方公共団体等の下水道担当職員の育成を目的として、発足当初から研修事業に取り組み、令和元年までに7万5千人が研修を受講され、研修生と講師陣はじめJ Sとのネットワークが構築されてきました。また、令和4年には研修環境を向上させる新寮室棟の運用開始が予定されており、より一層の研修環境向上に努める予定です。

J S 研修には、実務面で効果の高い研修成果が得られる、研修後も活かせるネットワークを培うことができるといった特長があります。こういった特長を活かし、変化する課題や地域ごとに異なる地方公共団体のニーズに対応できるように、下水道技術の向上や養成、訓練を目的とした唯一の研修機関として、今後とも人材の育成・継承に努めてまいります。

しかしながら、昨年からの新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、J S 研修事業も大きな影響を受けました。宿泊

施設の柔軟運用やWEB活用など工夫を重ね、感染対策に万全を期しながら、効果的な研修ができるよう努めたいと考えています。

さて、J S は来年で設立50年を迎えます。専門技術者をプールする下水道事業センターとして昭和47年に設立され、昭和50年の認可法人日本下水道事業団を経て、平成15年に地方公共団体が主体となって業務運営を行う地方共同法人として再出発して今に至っています。そして、その存在は、地方公共団体の下水道関係業務を支援する、法律に基

こういった課題にしっかりと対応するため、J S では役員一丸となって、研修事業をはじめ、政策形成から建設・維持管理まで下水道のライフサイクル全般について、全国各地の多くの下水道をみてきたプロ集団であるJ S だからこそできる支援に取り組めます。

新たな年を迎え、皆様のご健康とご多幸、そして、皆さまにとって今年が笑顔あふれる公私ともに充実した一年になりますよう祈念いたします。

ご挨拶

コロナ禍を乗り越えて

日本下水道事業団

理事 畑 惠介



研修・国際及び東日本担当理事の畑恵介です。どうぞよろしく申し上げます。

日本下水道事業団の創設時点より取り組んで参りました研修事業も歴史を積み重ね、7万5千人を超える方に参加していただきました。この間に、下水道を取り巻く状況も変化してきており、研修テーマも下水道の整備、普及促進、事業経営などのテーマに加え、改築更新、災害対策、アセツトマネージメント、企業会計制度の導入など、時代の要請に応えるべく研修テーマの充実を図ってきました。また、全寮制での研修

により育まれた人的ネットワークは、皆さんの貴重な財産として現在も活用されています。

このように順調に推移してきました研修事業ですが、令和2年度は新型コロナウイルスの流行で、研修事業の大幅な見直しを余儀なくされました。令和2年4月から6月は、全ての研修を中止しました。7月には地方研修を、8月には戸田の研修センターでの研修を再開しましたが、授業を受けていただく教室や宿泊施設の大幅な定数削減、受講生が密となる現場実習の中止など、カリキュラムの大幅な

変更を行いました。

また、研修生相互の親睦を深めるために実施していましたが、懇親会、談話室で集まりなどは、残念ながら中止せざるを得ないと判断しました。下水道事業団の研修事業が果たしてきた人的ネットワーク構築の面では、大変大きなマイナスであることが非常に残念です。

緊急事態宣言が解除されて以降も、関東方面への出張が制限されている公共団体も多く、研修参加のキャンセルも非常に多く発生しました。例年であれば参加者が少ない研修は中止する

こともありましたが、コロナ禍においても参加していただく方の気持ちを尊重し、わずか数名の参加となった研修もそのまま開催しました。

皆さんにお届けしています令和3年度の研修計画は、新型コロナウイルスの感染状況が第2波時点程度で継続すると想定して立案していますが、新型コロナウイルスの感染状況を見極めながら柔軟に対応してまいります。

一方、令和元年度に着手しました新寮室棟は、コロナ禍においても令和4年度の供用開始を目指し、順調に工事を進めています。新寮室棟の整備においては、災害時の安全性向上と災害支援機能の強化を図るとともに、研修生のニーズを踏まえた研修環境と生活環境の改善、向上を目指します。

また、研修科目につきましても、下水道施設の整備や維持管理、下水道使用料

や企業会計などの基礎的なテーマに加え、下水道資源のエネルギー利用、PPPに代表される新たな事業展開なども取り入れ、皆様のニーズを踏まえて研修テーマの充実を図って参りたいと考えます。

今後とも下水道事業団の研修事業に一層のご理解とご支援をよろしく申し上げます。



新任のご挨拶

心を密にする
研修の実施について

日本下水道事業団 研修センター
所長 水津 英則



平素は、日本下水道事業団（J S）研修センターへのご理解とご協力を賜り、皆様方には大変感謝申し上げます。令和2年4月から研修センター所長として参りました水津と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

この度、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に罹患された方々には謹んでお見舞い申し上げますとともに、一日も早いご快復を心よりお祈り申し上げます。また、このような中で最前線にて努力いただいております医療関係者の方に

敬意を表しますとともに、一日も早くこの事態が収束することを心より祈念いたします。

さて、令和2年度のJ S研修センターは、新型コロナウイルス感染症の影響で、予定しておりました宿泊研修は4月から7月まですべて中止としまして、8月17日から開始いたしました。この間、保健所をはじめとする関係機関に相談しながら、研修を開始するために必要な感染防止策について様々な検討を行いました。現在実施いたしております感染防止策の詳細は

別記事に記載のとおりですが、8月～12月までの間、26の研修を開催し、271名に参加いただきました。研修生の皆様のご協力もあり感染者を出すことなく研修を実施いたしました。今後も引き続き、研修生の皆様及び派遣される地方公共団体の皆様が安心して研修を受講いただける環境を提案させていただきます。

当研修センターでの研修は、下水道事業全般を網羅しており、その実施方法は、単なる知識の習得を目的とした座学だけではなく、演習や実習、ディスカッション、施設見学等を含んだ、実務に直結したカリキュラムになっていくことが特徴であります。これに加え、研修生の皆様に受講してよかったと言われることは、研修生同士が寝食を共にすることで、早く打ち解け合い、人的ネットワークの構築ができた、という点です。人的ネットワークを構築することは、研修修了後も、研修生同士が相談しあったり、情報提供しあったりすることで、継続的な研修効果が期待できます。これは原則全寮制である当研修センターの研修による到達目標の一つであります。

こうした研修生同士の交流は、演習、ディスカッション、グループ発表の準備など研修に関係する「密」、8人部屋での宿泊という「密」、懇親会による「密」など、物理的な「密」によって心の「密」が生まれるところから始まります。今年度は残念ながら、こうした

物理的な「密」をすべて避けるように研修を実施しております。今年度の残りの研修も令和3年度研修も、引き続き感染対策を実施せざるを得ない状況が続くものと思われまので、我々としては、研修生の皆様に協力いただきながら、物理的な「密」を避けて、心の「密」が生じるよう、工夫していききたいと思っております。

J S研修を通じて多くの下水道関係者が連携できるように、参加しやすく、ニーズにあった研修メニューを充実させ、施設の改善・改修にも努めて参りますので、J S研修への参加を是非よろしくお願い致します。



“女性（土木職）受講生から東北初！？の本庁下水道課長就任～全国でも初かも！？～”

女性受講生から初の下水道課長就任



山形県県土整備部

下水道課長 井上 洋子

（H3年度生）

持続可能な
下水道の未来に向かって

日本下水道事業団 研修センターの皆様、大変ご無沙汰しております。いかがお過ごしでしょうか。私ごとですが、令和2年4月1日に山形県県土整備部下水道課長を拝命し、約10年ぶりに下水道課に戻ってまいりました。今回で3回目となります。最初は、入庁した平成3年度からの3年間。研修センターには、その年の11月にお世話になりました。当時の本県の下水道普及率は25.2%で、市町村の事業着手に腐心しており

ました。2回目は、平成19年度からの3年間。汚水処理の安定化が図られる中、流域下水道の汚泥処理や消化ガスの有効利用を検討しました。そして、この度の着任。普及率も77.6%となり、本県の下水道もほぼ概成が見えてまいりました。流域下水道は、今年度から公営企業として新たなスタートをきりました。下水道を取り巻く環境も大きく様変わりし、経営の健全化、人口減少を見据えた汚水処理システムの最適化・広域



化、ストックマネジメントによる改築、気象変動に伴う外力への対応など課題が山積している印象を受けました。

そのような中で、7月豪雨の洗礼を受けました。本県の母なる最上川が氾濫する事態となり、流域の処理場において供用開始以降初となる放流ゲートの閉止、場内の浸水、雨天時浸入水の大量流入によるマンホールからの溢水が発生しました。幸いにも処理場設備の水没は免れたため、処理機能の停止といった甚大な被害とはならずに済みましたが、7月以降、地元対応や再発防止対策等に奔走しております。

日々業務に追われる中で、持続可能な下水道の未来に向けて思うことは、3つ。

1つ目は、気象変動への対応です。従来100年に1度といわれた雨量もはや数年に1度の頻度で発生しています。建設当時の処理場の設計思想と大きく異なってきており、早急に耐水化等の対策が必要です。また、下水道管理者

としては、気象変動の元凶となる地球温暖化を防止する観点から、消化ガス（メタンガス）を放出しないよりいつそこの工夫が求められます。

2つ目は、経営努力と経営を支える技術の進歩です。処理コストに応じて使用料をむやみに上げるわけにはいきません。所得に対する光熱費の割合の増大は、住民の暮らしを圧迫し、地域の存続問題に発展します。地方ほど絶え間ない経営努力が必要です。そして、経営を支える技術の進歩が必要不可欠です。汚水処理は、微生物の分解という原始的な営みに頼っていますが、近い将来、この微生物の生育環境をA Iの技術で最適化し、適正規模で低コストな処理が可能となることを期待したいところです。

3つ目は、なんといっても人材！ 今回の事象の対応にあたり、人材の育成を痛感しました。下水道は、土木、機械、電気、化学そして企業会計といった専門的な知識が必要です。通常業務での

こうした知識の他に、災害時における臨機応変での確な指示が出せる人材、現場での対応ができる人材が必要不可欠であり、こうした技術やノウハウを継承していくことが何よりも大切だと思っています。そしてその一翼を担っているのが、貴研修センターです。今後とも下水道技術者の育成の場として末永く機能していただくことをご期待申し上げます。

下水道におけるリスク管理と経営は今後益々厳しさを増してくるものと思われれます。私もこの度の巡りあわせを大事に、今できることを1歩1歩進めてまいりたいと考えております。

結びに、日本下水道事業団研修センターのますますのご発展を祈念するとともに、今回貴重な機会をいただきましたことに感謝と御礼を申し上げます。また、全国の「みずのわ」会員の皆様方、ご活躍を期待しております。また、お目にかかれる日までどうかお元気で。

研修生だより

事業団研修を振り返って

埼玉県川口市上下水道局事業部

下水道建設課工事第一係主査 鎌田 邦夫

(R元年度生)



川口市上下水道局下水道建設課の鎌田と申します。

研修センターの諸先生方、職員の方々、そして同期研修生のみなさん、ご無沙汰しておりますが、いかがお過ごしでしょうか。

渡邊先生から「研修みずのわ」の寄稿依頼を頂き、私で良いのだろうか、という思いと、お断りすることはできない圧を感じ、引き受けさせて頂きました。

「鎌田君も事業団研修にいくのか、いろいろ大変だなあ」

研修を受けることが決まり、同じ職場の人から言われたのがこの言葉でした。

「そんなに大変なんですか。加えて幹事を仰せつかりました」

「それはそれは…」

と、今思えばあることないことをたくさん吹き込まれ、不安いっぱいの中、研修へと向かったことを覚えていきます。

研修がはじまると、研修生のみなさんは、下水道の経験が豊富な方々ばかりで、下水道1年目の私は、

ついていけるのかと、さらに不安になりました。しかし、懇切丁寧な先生方の講

義やグループに分かれての事例研究など、みなさんが熱心に取り組んでおり、私もその雰囲気の中、詰め込みではない、生きた知識を得ることが出来たと感じています。

その中でも、宮城県七ヶ浜町町長の寺澤先生の特別講義「東北大震災復興状況第3弾」の中での「災害対応では、自治体職員の対応や行動がとて重要であります。幅広い視点と多くの引き出しを持ち、バランス感覚を大切に、日々



施設研修(さいたま市オープンシールド現場にて)

の業務に取り組んでください」という言葉が印象に残っております。

また社会人になってからの寮生活は新鮮なものであり、毎夜練り広げられる時間外講義も参加させて頂いて、全国各地から集まった年代も様々な研修生のみなさんと苦労話や当地の話題などに時間を忘れて盛り上がりました。

実務では、図面を広げ、デスクに向かい、ややもすると単調な毎日の中、新たな知見を得て自分を高めることを忘れてしまいがちです。そんな日々を離れ、刺激がいっぱいの研修を受けることができ、凝り固まっていた脳ミソを柔軟にできた気がします。

最後になりますが、貴重な経験をさせて頂きました渡邊先生に感謝するとともに、日本下水道事業団研修センターの益々のご発展を祈念し、終わりとさせて頂きます。

事業団研修を受講して 得たもの

三重県菰野町

下水道課主査

西村 千穂

(H30・R2年度生)



この度は、「研修みずの

わ」の執筆にお声をかけて頂き、誠にありがとうございます。渡邊良彦特任教授から依頼を頂いたとき、大変光栄なことだと感じ、引き受けましたが、今となっては、言葉足らずの私で大丈夫か不安です。

私は、大阪市を経て、平成27年4月に菰野町役場に入庁し、平成30年4月から下水道課に配属されまし

た。下水道工事の設計積算、現場管理が私の主な業務になります。

まず、菰野町ってどこだと思われている方、沢山いらっしゃると思いますので、当町の紹介をさせて頂



菰野町庁舎



日本一の鉄塔と御在所ロープウェイ

きます。菰野町は、三重県の北部にあり、鈴鹿山脈の麓に位置する自然豊かなまちです。1,300年の歴史を有する湯の山温泉や、日本一の鉄塔をほこる御在所ロープウェイが観光スポットです。また、標高1,212メートルの御在所岳

は登山の名所としても有名です。下水道事業におきましては、流域関連公共下水

道事業と農業集落排水事業になります。公共下水道については、平成6年度に事業を開始し、現在下水道普及率は約67%となっております。

私が事業団研修を受講したのは、平成30年度の実施設計コース(管きよ設計I)と令和2年度の実施設計コース(推進工法)になります。

はじめて受講した（管
きよ設計I）は、下水道課
に配属され間もない私に
は、とてもありがたいもの
でした。当時、私は下水道
用語もわからず、先輩方の
仕事を見様見真似でしてい
る状態でしたので、この研
修で、基礎知識を高め、実
務に反映できればと意気込

んでいたのを覚えていま
す。10日間の期間でしたが、
研修内容は充実しており、
受講前に比べると、見様見
真似でしていた仕事内容も
理解しながらできるようにな
りました。

今年受講した（推進工法）
は、正直、新型コロナウイルス
感染症の影響で中止だ



庁舎展望台からみた鈴鹿山脉



マンホールカード



と思っていたのですが、研
修日の通知が送付されたと
き、感染者が多い関東地区
に行つて大丈夫なのかと怖
気つきました。そして、追
い打ちをかけるように、渡
邊先生と青木先生から、幹
事をしてほしいと告げら
れ、更なる緊張と不安で一
杯でした。

しかし、研修所では、教
室と食堂は離間距離を確保
しての座席指定、換気の方
めドアを開放、教室ごとに
設置されている消毒液、ま
た、寮室は4人部屋が1人
使用となつていたり、新
型コロナウイルス感染症拡
大を防ぐための配慮を沢山
して頂きました。私として

は、安心且つ快く講義を受
けることができたことに感
謝しています。

どちらの研修も、学び得
たものが沢山ありますが、
その中でも、「下水道」と
いうワードで繋がりを持て
た仲間に出会えたことが、
私にとっては最大の成果で
す。グループで各自自治体の
問題を話し合った仲間、マ
ンホールカードを交換した
仲間、今でも連絡を取り
合っている仲間達が、全国
各地にいると思うと、なぜ
か心強く感じます。そして、
この研修期間を有意義なも
のにしてくれたのも、同じ
志を持った仲間のおかげで
す。

最後になりますが、研修
中大変お世話になりました
渡邊先生、青木先生をはじめ、講師の皆様、下水道事
業団の皆様、同期研修生の
皆様、このような状況の中
ではありますが、皆様のご
健康と益々のご活躍を心よ
りお祈り申し上げます。

「みずのわ」をつなぐ 先人の教え

(公財)
埼玉県下水道公社

市町村支援課主幹
若狭 公一

(H7年度生)



ことと迷うことなくお返事をさせていただきます。貴重な機会をありがとうございました。ございます。

日本下水道事業団研修センターの皆様とは、同じ埼玉県内として、また我々のフラッグシップ処理場である荒川水循環センターとは隣近所ということもあり、日頃から何かとお付き合いをさせていただいております。「研修みずのわ」も拝読させていただいております。お世話になっております。渡邊先生から寄稿のお話をいただき、大変光栄な

改めて自身の研修記録を振り返ると、受講した研修は、今から25年前、平成7年の処理場管理Ⅱでした。私は、平成5年採用なので、まだまだ新米社会人、下水道界の入り口に立ったばかりにもかかわらず、ちょっと調子に乗り始めたころだったと思います。同じ部屋の方々はみな先輩でしたので、面倒な若造と一緒に思ったと思ったのではないのでしょうか。それでも3週間たくさんの経験と良い思

い出ばかりで研修を終えることができたのは、「年齢を問わずみな生徒」という特殊な空間と、「同じ釜の飯を食い、寝起きを共にする」という貴重な体験をさせてくださった先生方、研修生の皆さんのおかげです。たと大変感謝しております。

同じ釜の飯といえ、職場の先輩から口々に「事業団研修に行ったら肥るぞ」と言われていました。確かに研修中、食堂では大盛りご飯をお代わりし、毎夜遅くまで開催される意見交換と魔法の水によって、先人の教えを忠実に再現する結果となりましたが、これもこれも良い思い出です。それから5年後の平成12年には、水質管理Ⅰの水質実習に二日間講師として参加させていただきました。埼玉県下水道公社は、毎年十数名の職員が維持管理系のコースに講師としてご協力させていただいており、

は、25年の間ちよこちよこ研修に参加し、尊敬する渡邊先生や長澤先生との出会いをはじめ、私共の名物OB大鹿先生のご着任など、様々な形で「わ」を教えてください。お陰様で益々調子に乗ってまいりました。

蛇足ながら、最近、研修センターで食事をいただく機会がありました。とても美味しかったです。研修生はつい食べ過ぎてしまうのではないのでしょうか。そんな時は是非、荒川水循環センター上部公園のジョギングコースやパークゴルフ場、健康器具広場をご利用ください。きっと受講前より「心技体」を整えて、「わ」と合わせてお持ち帰り頂けることと思います。

「みずのわ」をつなぐ先人の教えの一つに加えていただけたら幸いです。

その後も4回ほど講師として参加させていただきました。参加」と表現しております。「参加」と表現させていただきます。講師という立場を借りて同じフィールドで活躍する全国の皆さんと共に、下水道マンに必要な心構えと技術を学ばせていただけて来たからです。調子に乗った面倒な若造





外部講師の視点

下水道を学ぶ

埼玉県さいたま市建設局

南部建設事務所長 稲垣 武司

(H9年度生)



わたくしと日本下水道事業団研修センターとのつながり、それは学ぶ生徒から、学ばせる管理職へ育てていただいた30年のお付き合い！

浦和市時代、下水道に携わるようになったのが平成4年のことでした。当然、下水道を知らず汚水管開削工事を担当することになり先輩に教わり

ながら積算・現場監督に取り組んだものでした。その後、推進工事も担当するようになり、先輩方が順次、参加していた下水道事業団の「管きよⅡ」コースを受講しろとの命がくだり、平成9年12月の同コースに参加したことが、下水道事業団とのつながりの始まりでした。

管きよⅡを受講した2年後には、「管きよⅠ」コースの測量・図面作成で講師のお手伝いをさせていたただくことになり、教える側として勉強させていたただく機会を得ることができました。

幸か不幸か合併を1年後に控えた平成12年4月の人事異動で、埼玉県下水道課へ合併後を見据えた2年間の研修に出され、合併のドタバタを経験することなく外から「大変だねえ」と他人ごとのように見ていました。

ところが、その年、埼玉県職員として「認可」コースを受講することになり、8月からのコースに参加させていただきました。

まさか、2年あまりの間に2度も事業団研修を受講することにはなんと、思ってもいませんでした。

最初の管きよⅡコースは、すでに工事積算・監督を経験していたため、研修内容を学ぶためではなく(?)、全国の下水道に携わる方々と交流を持つことを目的に参加したような感じでした。参加した研修生は、北は北海道から南は沖縄県まで全国各地から参加されており、その地域ごとの状況や課題について、皆さんと共有できたことが良い経験でした。

2回目の受講は、県職員としてであり、県での担当が、下水道事業に携わる市町村組合の事業認可や国費の取りまとめを行っており、市職員としては全く経験のない業務であったので、大変苦労しました。参加していた研修生も、市町村組合職員であれば、事業認可とは何かとか、事業認可取得に向けた図書作成方法について学ぶ立場であるため、共に学べたことが良かったです。

埼玉県での研修が終了し、さいたま市職員となり(県での研修中に合併!)市へ戻ったときは、まさに浦島太郎状態でした。配属された下水道の

部署には、知らない顔が半分以上！しかし、県での研修時、合併する大宮市職員もおり、さいたま市の同じ課へ配属になったことが幸いでした。

ちなみにさいたま市は、大宮、与野、浦和の3市とその3市の上水道事業を受け持つ一部事務組合が合併して誕生し、その後、岩槻市と合併して現在に至ります。

さいたま市職員となつてからは、管きよIコースの積算演習、管きよIIコースのデイスカッションなどに5年間で数回参加させていただき、この時も各自自治体が抱える疑問や課題について微力ながらこれまでの経験からのアドバイスをさせていただきながら、一緒に学ばせていただいたものです。

また、渡邊教授の要請を受け開削・小口径推進工法の積算演習用教材の大幅改定を行うべく作成

委員会の委員長を託されました。千葉市・東京都都市づくり公社・草加市・新座市の各委員と共に教授陣にムチ打たれ、苦勞をしながら仕上げることでできました。研修生に解りやすく作成することが、改めて学ばせていただく機会となり大変貴重な経験でした。

現在は、下水道の管理・建設・再整備を行う課を所掌する立場にあり、若手職員の技術力向上と、全国の下水道に携わる職員との交流の場である下水道事業団研修センターへ職員を派遣している状況です。

繰り返しになります。下水道に携わる職員にとって下水道事業団研修センターは、下水道を学ぶだけではなく全国に仲間をつくり懇親を深めるための良き場であります。研修に参加した若手職員も、皆、同じような

感想を抱いていることと
思います。

学ぶ立場、教える（ともに学ぶ）立場、学ばせ

る立場それぞれの思いを経験させていただいたことに感謝です。

今後の下水道事業団研

研修講師とみずのわ会

千葉県千葉市建設局下水道建設部

下水道整備課長補佐 鈴木 宏一

(H9・H19年度生)



であります。

研修生として、平成9年の管渠Iコースと平成19年の計画認可コースの計2回、研修の講師としては、管きよ設計II、管きよの維持管理、管きよの液状化対策など計7回、参加しております。研修は、全て戸田の研修センターでの業務の一環ですが、これ以外に南浦和や大宮、時折銀座などで開催された「花見」や「忘年会」「送別会」などの名目で行われた「関東みずのわ会」には、これまで30回以上参加させていただき、事業団の方々をはじめ、各自自治体の皆様方と交流を深めさせていただいたところであり、自分にとっての掛け

この度、「研修みずのわ(第54号)」の発刊に際し、渡邊良彦特任教授から執筆のお声掛けをいただきましたこと、ありがとうございました。

さて、日本下水道事業団研修センター(JSS)と自分とのつながりです

が、自分の行政歴とほぼ同様、約25年間になります。平成9年、入庁2年目の自分は、当時の上司であった土屋潔課長補佐と田邊康夫工務第一係長からの推薦を受け、管渠Iコースを受講することになりました。その際のJSSのコース担当は、渡邊良彦助教(現特任教授)でした。ここから、自分のJSSとの繋がりが、というより「みずのわ会」との繋がりが始まったの

修センターの益々の発展と全国の架け橋になっていただくことを祈念いたします。



替えない財産となっております。

さて、本題の「外部講師の視点」についてですが、これまでの7回の講師経験を通じて、いろいろと感じること、学ぶことがありました。まずJ Sの研修は、研修内容やプログラム、研修施設などが、大変優れている点です。下水道の整備・普及促進が主体であった十数年前の研修テーマから、最近では、アセットマネジメントや施設の維持管理、地震・豪雨などの災害対策など、時代のニーズに即したテーマが追加され、各自治体の方々は、それぞれ必要に応じた研修テーマに参加していることと思いません。自分が講師として参加した液状化対策や管きよの維持管理では、

デイスカッションにおいて、研修生の方々が、各自治体の抱える各テーマ

における課題や問題点、対策を積極的にについて意見しており、講師としてこの中で議論できたことは大変有意義なものでありました。今後も引き続き、時代のニーズに即したテーマを取り上げていただくことを期待しております。

また、渡邊特任教授方から、研修の講師に行つた際、研修生との新歓コンパなどに誘っていただいたことや、コースに参加されている講師との夜の反省会をセットしていただいたことに感謝しています。全国の下水道事業に関わる職員と、様々な視点で意見を交わしあうことができ、またこれらの人達と今後のつながりがもてたことは、大変有意義なものでした。コロナ禍の中、現在はこのような機会を持つことが難しいとは思いますが、今後もこのような機会

会を作っていただけという、期待いたします。私事ですが、液状化対策のコースで知り合った宮城県七ヶ浜町の寺澤薫町長や岩手県の長沼輝伸課長、福島県須賀川市の安田昭課長とは、引き続き

き、情報共有の場が持てたらと思っております。最後に、全国すべての下水道事業に従事する職員が、J Sの研修を通じて今後抱える課題や問題を一枚岩になって解決できるよう、この研修が「職

員のつながりの要」としていつまでも存在することを期待するとともに、日本下水道事業団研修センターの益々のご発展と、関係者の皆様の更なるご活躍を心よりお祈り申し上げます。

日本下水道事業団研修の 受講の経験から

熊本県熊本市上下水道局計画整備部

計画調整課技術監理室長

福田 政昭

(H16・18・24年度生)



この度は「研修みずのわ」第54号への寄稿のお声掛けを頂き、ありがとうございます。

今年は、新型コロナウイルスの感染拡大により、研修業務に多大な影響を及ぼし、研修センターの職員のみなさまにおかれましては、大変な状況であったこととお察しいたします。

き、ほっと胸をなでおろしたところです。そのような中、渡邊良彦特任教授からお電話いただき、「研修みずのわ」への執筆のご依頼をいただきました際には、私で良いものかとも考えましたが、そうそういただけの話ではありませんの



実施設計コース管きょ設計Ⅱ (H18第6回)
 (上段：授業風景 下段：土質実験)

で、二つ返事でお引き受けいたしました。

私は、平成6年に熊本県鹿本郡植木町（現熊本市北区）に採用され、平成14年度に出向した熊本県下水道課（現下水環境課）での仕事が始まりました。その後、平成21年度まで植木町の下水道を担当し、平成21年度末、熊本

市との市町合併に至りました。合併1年目こそ下水道から離れましたが、翌年には親しみ深い下水道に戻り、予算や計画関係の業務を行い、今年、

この間、平成16年度に「下水道使用料」、平成18年度に「管きょ設計Ⅱ」、

合併後の平成24年度に「下水道の経営」と3度、研修受講の機会を得て、同じ悩みを持つ仲間たちと、グループディスカッションの準備や効果テストの勉強など真面目な話をほんの少し行い、大半

は酒を酌み交わした日々を思い出します。本当に貴重な経験と人脈形成ができました。

また、昨年度は、管きょ設計Ⅰの製図測量の講師のお話をいただき、先輩方からいただいたご恩に報いるべく、下水道に関する技術向上に向け、受講生のみなさまのお手伝いをさせていただきました。

今年度もお手伝いできるものと準備をしておりましたところ、コロナウイルス感染拡大防止による移動自粛となり、研修開催が見送りととなったところです。

若手職員との貴重なコミュニケーションの場と考えておりましたが、こればかりは仕方ありません。

来年度お声を掛けていただけるものならば、喜んでお引き受けしたいと考えておりますが、講師をお受けするとなると、当然ですが自分でも勉強します。これがよい復習で、いつの間にか作って

しまっていたローカルルールの原点回帰ができます。

現在の職場では、職員の技術研修も所管しており、これまでに事業団研修でご指導いただいたことを活かせる職場です。講師をお受けすること

で、自身のスキルアップにも繋がるわけです。もし、講師の打診を受けて、躊躇されている方がいらっしやいましたら、ぜひ体験されてみてはいかがでしょうか。

最後になりますが、今回、執筆の機会を与えてくださいました、渡邊良彦特任教授をはじめ、これまでにご指導いただきました日本下水道事業団研修センターのみなさまの益々のご健勝を心よりご祈念申し上げます。
 若い下水道マン、下水道女子のみなさん、一緒に下水道のことを勉強しましょう。

JS研修センターとのつながり

(元)東京都下水道局流域下水道本部技術部長

(現)東京都下水道サービス(株)

保全・新技術担当部長 松島 修



この度は「みずのわ」への執筆依頼をいただき感謝申し上げます。

私は、東京都を2年前に定年退職し、現在、東京都下水道サービス(株)に勤務しています。現役中、東京都で30年、下水道機構で3年、下水道事業に従事しました。

事業団研修センターとの接点は、昭和61年、水質管理Iの実習講師が始まりで、延べ3回講師を

務めさせていただきまし

た。初めての实習講師は、準備万端で臨みましたが、教科書通りの説明しかできず自分の力量のな

さに忸怩たる思いで帰路につきましました。再度チャンスが巡ってきた二回目

は、前回の反省を糧に「検査項目の意味」や「データの運転管理への反映」

など現場実務に即した実践的な説明を心掛け、その結果、「充実した実習

で理解が深まった」という講師冥利に尽きる言葉をいただき安堵したこと

を覚えていきます。

次が、処理場維持管理のディスカッションの講

師です。当時、東京お台場へのオイルボールの漂

着に端を發した合流式下水道からの雨天時放流水

が社会問題になっていて、テーマとして合流改善が取り上げられました。私はお台場に隣接する芝浦処理場の場長でしたので、海上保安庁との折衝や東京都の取組みについて実例を交えて話しました。研修生との真剣な討議を通じ、講師の私も各地の対応策を知り大変勉強になったことが印象に残っています。

そして、研修後に開催

される酒を酌み交わして

の本音のディスカッショ

ンは、研修センターの先生方はじめ、全国の研修

生の皆さんと人的交流ができ、東京都しか知らない井の中の蛙であった私

にとつて視野の広がる貴重な機会となりました。

振り返れば事業団での講師の経験は、その後の自身の取組みや活動に役立

つ財産になったと考えています。

私は、さいたま市に住み戸田市の研修センター

周辺もテリトリーで、研修センターの裏手に広がる荒川第一調節池でサイ

クリングやランニングを楽しんでいきます。調節池内には彩湖(さいこ)が



ランニング中 研修センター南側より撮影

広がり4.7kmのランニングコースが整備されています。毎年11月に行われる「戸田マラソン」には、毎回、東京都や下水道機構と一緒に働いた仲間と参加していますが、残念ながら昨年は台風、今年は新型コロナウイルスの影響で中止となりました。緑豊かな気持ち良いお勧めのコースです。ぜひ、「下水道職員健康駅伝大会」を目指す方もそうでない方も、研修の際はランニングシューズを持参し、走られてはいかがでしょうか。

さらに、研修センターとの関わりでは、埼玉県・さいたま市、東京都の同窓会である「さいと会」の東京都側の事務局を務めています。東京、埼玉の名所旧跡などを交互に訪問し懇親会で交流を楽しむという会で、研修センターからも渡邊先生、

長澤先生に参加していただいています。今、コロナ禍で開催は叶いませませんが、今後は、若い方へも輪を広げていきたいと思いい、会場の選定など企画を練っています。

下水道を取り巻く諸課題がより多様化・深刻化

する中、事業団研修は単に「技術習得の場」だけでなく、全国の第一線の職員同士の交流による「他の世界を知る場」「刺激をうける場」としての意義は大きいと考えます。コロナ禍で御苦労は多々あると思いますが、

今後ともタイムリーで魅力的な研修実施を切に願っております。結びになりますが、研修センターと関係の皆様のご発展、そして、全国のみずのわがますます広がることを祈念いたしております。

生になるのだ」と言われ続けた反抗心からか、土木工学の道に進み、民間企業に進んでしまいました。

しかし、地方共同法人日本下水道事業団研修センターにて、年間の数日ですが外部講師を務めさせていただき、微力ながら血筋を活かしているような気がします。これで、あの世でも一定の会話は成立しそうです。

講師体験を通して思うこと

日本工営(株)水環境事業部

上下水道部次長 柳本 諭

(民間講師)



としています。

私は、大分県の田舎町に生まれ、土木工学を学んだ後、上京しました。早、四半世紀を迎えよう

下水道技術に関する基礎的なことを習得した

三十前半と記憶していますが、地方共同法人日本下水道事業団研修センターの社外講師をするチャンスをいただきました。担当は、「管きよ設計

をさせていたただいております。

私の親族は、教職関係が殆どで、民間企業に勤めているのは、実は私だけです。下の名前も親の意向としては、教員にすべく「諭す」が由来と聞いております。子供の時から「大人になったら先

さて、外部講師の視点というところで、私が実践していることを紹介させていただきます。

電算化が進んだ現在、「管きよ設計Iコース」は、自らの手で、図面・各種計算・演習をするこ

とで理解を深めるというポリシーを担当教授よりお引き受けする際に、薫陶を受けました。

そこで、下水道管きよ設計の基礎である若手技術者(当時は同年代)に

と伺いました。権威ある日本下水道事業団研修センターの講師をさせていただけるとのお話に、大変緊張したことが思い出されます。

研修は、午前中に千種氏が講義をされ午後から顕微鏡実習でした。研修生には、前もって処理の状態を変えて育てた活性汚泥サンプルを顕微鏡で観察していただき、処理の状態を診断するプログラムでした。顕微鏡は研修生ひとりに1台ずつ用意されていて、他の研修生もそうですが、研修センターには研修に使用する設備が贅沢にそろっており、技術力が素晴らしいと感銘を受けたことが思い出されます。実習の時に研修生の方々から質問をお受けして、まだ経験の浅かった自分は、講師などおこがましいと思いつつながら一杯務めさせていただきました。千種氏

が定年退職する年に最後の顕微鏡実習をさせていただきます、その時に研修を担当してくださいました渡邊良彦特任教授に初めてお会いしました。

再び外部講師として研修センターのお世話になったのは2010年水質管理Ⅰの水質実習でした。渡邊先生が自分のことを覚えていてくださり講師をしないかとお声をかけてくださいました。大腸菌群や大腸菌の測定方法を学ぶ実習でした。自分に講師が務まるのか大変不安になりましたが、覚えて声をかけてくださった渡邊先生のお心遣いにお応えしたいと思ひ、お受けすることにいたしました。今年は新型コロナウイルスのため研修がなくなりしましたが、その後毎年講師をさせていただき、研修生の皆様と情報交換しながら国内の動向等も合わせて共有させて

いただいております。

その他にも民間技術者研修維持管理コースの水質実習講師、埼玉県公社の理事長の特別講義へのお誘い、研修講師をされている先生方へのご紹介を通して渡邊先生のおかげで大変貴重な経験をさせていただいております。また現在研修セン

ターで講師をされている大鹿純一専任講師からは民間企業ではわからない、公社や自治体側からの下水の維持管理に関する歴史や考え方を教えていただきました。改めて、我が国の下水道を長年に渡り支えてこられた日本下水道事業団研修センターの役割の大

さを間近で見せていただき、その末端に関わらせていただけている幸せを実感しております。最後に新型コロナウイルス対策で厳しい環境可ではありますが、日本下水道事業団研修センターの今後益々のご発展と研修生のご活躍を心からお祈り申し上げます。





「世界遺産 平泉」と 陸奥（みちのく）の復興

岩手県県土整備部

北上川上流流域下水道事務所

施設整備課長 長沼 輝伸

(H10・H11・H23年度生)



この度、「研修みずのわ」の執筆の機会を与えていただきありがとうございます。お声がけいただきました渡邊特任教授に感謝申し上げます。

私は、平成11年1月の管きよ設計Ⅱの研修をはじめに、以降2回、研修センターで受講させていただきました。渡邊先生とは、管きよ設計Ⅱでお世話になってか

ら、これまでも御指導いただきいております。「いわてみずのわ会」の発足までは至ってはいませんが、渡邊先生にお世話になった面々で夜の意見交換会を開催しており、かれこれ12年目になります。これまでの参加

は県、盛岡市、花巻市、二戸市、陸前高田市、雫石町、県下水道公社です。今後もこのような人と人のお付き合いを大切にしていきたいです。写真は昨年の盛岡市内での様子です。(みだぐないのが私です。)

さて、私の下水道歴は、19年目になりますが、この

間下水道行政は、施設整備の推進から、老朽化に伴う施設改革に主眼が置かれるように変化してきました。そのような歴史を体験してきた私たちは、将来の下水道行政を担う人材を育成していく使命がありますし、最も難しい課題の一つであると感じております。研修センターがこれからも人材育成のメッカであり続けるよう切に願います次第であります。

さて、歴史といえば、今回の執筆にあたり渡邊先生から「『歴史もの』の号にしたい、岩手の世界遺産である『平泉』のことを盛り込んでくれ」との御指示がありましたので、とても荷が重いのですが、少し紹介させていただきます。

「平泉の文化遺産」は、2011(平成23)年6月、フランスのパリで開催された第35回世界遺産委員会において、世界遺産リストに記載(「世界遺産登録」す

ることが決定されました。資産名は、「平泉」、仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群とされ、構成資産は、中尊寺、毛越寺、観自在王院跡、無量光院跡、金鶏山になります。

平泉は、今からおよそ千年前、福島県白河市の白河の関以北に存在した陸奥国(みちのく)、今の東北地方一帯のほぼ中央に位置していました。現在の岩手県西磐井郡平泉町周辺を指します。

広大な国家としてだけではなく、当時は唯一の金の産地であり、ほかにも馬、和紙、漆、北方交易による特産物も入るなど、豊かな国であったとされています。そのような中、奥州藤原氏が三代にわたって、中央にも引けを取らない繁栄を極めた国家を築き上げました。当時は、人口が10万人であったともされています。強大な国家をまとめたためだけに必要であったのが、「普遍的な仏教」でし



2020年2月盛岡市内にて(右端が筆者)

た。平泉には浄土思想の考
え方に基づいて造られた多
様な寺院や庭園が、一群と
して現存しており、それら
は、この世の中に理想郷を
つくり出したもので、世
界の他に例の無いものと評
価され、世界遺産登録とな
りました。

私は、岩手の地にこのよ
うな崇高な世界遺産がある
ことに誇りをもち、先人た
ちの思いを受け継ぎ、さら
に未来へ引き継ぐことの大
切さを強く感じています。

そして、世界遺産に登録
されたのは、2011年6
月ですが、東日本大震災か
ら3か月後のことでした。
震災後、悲しみに打ちひし
がれていた私たちは、この
登録に大きな希望の光を見
出すことができました。

震災からちょうど10年が
たち、復旧・復興は全国の
皆様の強力な支援のもと、
いよいよ仕上げの段階に上
がっています。本当に感謝申
上げます。

とが必要ではないでしょう
か。
くしくも、私たちは今、
新型コロナウイルス感染症
や、頻発する豪雨災害と
いった新たな脅威に対峙し
ています。下水道に携わる
者として、安全・安心な生

活を送ることができると
を維持するため、下水道の
目的である「公衆衛生の確
保」を實踐し、未来に引き
継いでいかなければなりま
せん。それは、世界遺産平
泉の理念である「理想郷の
創出」につながるものと考

えます。
※追伸
「宮山福会」会員でした
(元)陸前高田市下水道係の吉
田和也さんが震災で亡くな
られて10年になります。紙
面をお借りして御冥福をお
祈りいたします。

コロナ禍の今、「みずのわメンバー」、 心のデイスタンスはより近く

宮城県松島町教育委員会

教育課学校教育班長

大宮司

綾

(H16・17年度生)

しかし、震災により傷つ
いた心は完全に
癒えるものでは
なく、まだまだ
時間がかかると
思います。これ
まで、猪突猛進
で復旧・復興に
頑張ってきた私
たちは、一度立
ち止まって、公
私ともにこの10
年の陸奥(みち
のく)の歩みを
見つめなおすこ



この度は、「研修 みず
のわ」第54号の発刊、誠に
おめでとうございます。

私は平成16年度「決算と
消費税」、平成17年度の「下
水道使用料」と2度の研修
を受講させていただきまし
た。加藤教授の熱い講義を
受け下水道経営の奥深さに
気づくことができ、その後
の仕事への向き合い方にも
大きな変化がありました。

難しさの中にも楽しめる
(面白いと思える)ポイン
トを見つけながら仕事を進
めていく。そのような「し
ごと心」を私に授けていた
だいたことに心から感謝し
てしております。
そして、同じ研修を受講
した仲間同士の繋がりも大



媛県の有志の方々がつくったプロジェクトで、愛媛特産のかんきつをイメージした色（黄色やオレンジ、黄緑など）のひもを、三つの輪ができるように結んだりボンがシンボルとなっっています。三つの輪はそれぞれ、地域、家庭、職場（学校）を意味し、コロナ感染などした場合でも、誰もが地域や職場（学校）に帰ってきたとき、みんなを支えるまち、笑顔で住み続けることができるまちにしたいという想いが込められています。松島町は宮城県で初めて自治体による参加表明をしました。学校で児童生

徒がプロジェクトの意味を考えながらリボンづくりをしたり、町職員がリボンを作成し、窓口で町民の方々に配布するなどの様々な取組をはじめたところ、町民の方がリボンをつくって町に寄付してくださったり、自らお知り合いにプロジェクトを広めてくださったりと温かい輪が広がってきています。気分が塞ぎがちなコロナ禍ですが、町のみなさんのポジティブなエネルギーのバトンが多くの人々へ繋がっていくよう、私自身もシトラスリボンを身に付けて、思いやりの輪を広げていきたいと思っています。皆さんにもこのプロジェクトを知っていただけたら嬉しいです。

みずのわメンバーの皆さまのご健康とご多幸、日本下水道事業団研修所の益々の発展をお祈りしつつ、私からの寄稿を結びとさせていただきます。ありがとうございました。

「縁」のつながり

福島県郡山市上下水道局

経営管理課技査

柳沼 彰広

(H22・H24・R1年度生)



「みずのわ」。事業団研修を通じた人と人の「縁」のつながりを連想させる素敵なワードであると思います。今回、渡邊良彦先生から寄稿の依頼を頂きましたが、実は私は渡邊先生の授業を受けたことはありません。本市の事業団研修OBの紹介により知り合い、これを10年来のお付き合いをさせて頂いております。

渡邊先生を通じて他の自治体の方や研修センターの先生方とも交流させて頂き、「縁」をつなげてくださっていることに大変感謝しています。

また、今回の寄稿にあたり送付頂いた前号の「研修みずのわ」には、かつて一緒に研修を受け、渡邊先生との夜の意見交換会も共にした仲間の顔がありました。下水道分野で頑張っている様子が分かり、日々の業務に対する励みにもなりました。

さて、私は平成22年度「管きよ設計Ⅱ」、平成24

度「設計照査（会計検査）」、令和1年度「技術系職員のための公営企業会計（入門編）」の3コースを受講させて頂いております。各回とも、充実した講義のほか、他の研修生と多くの意見交換をすることができ大変勉強になりました。

研修センターでの楽しみの一つに、講義後の時間の過ごし方があります。そんなことがありました。その日は、同室の年長者の「夜は美味しいものを食べに行こうぞ。」との号令のもと、部屋の者全員で研修センターの自転車に跨り、繁華街へ繰り出しました。美味しいものを食べたところまでは良かったものの、帰り道が分からず、道に迷ってしまいました。当時はまだスマートフォンが普及していませんでしたので、コンビニで地図を見たり、月明かりに微かに見える荒川沿いの大きな水門を目印にしたりして、河川敷を自転車

で激走し、汗だくになりながらやっとの思いで門限直前に研修センターに辿り着きました。全国各地から集まった出会って間もない者同士がこのような体験を共有することで一体感が生まれ、研修後もお付き合いする関係となっています。なんと昨年は結婚式に招待され、久々の再開を果たしました。このようなこともまた、事業団研修の醍醐味であると思います。

ここで、郡山市近郊における同窓会の活動を紹介いたします。例年2月は、渡邊先生の東北地方行脚の月となつていきます。本市にも毎年お越し頂き、先生を囲む会を開催しています。本市の事業団研修OBだけでなく、隣接する須賀川市の職員も駆けつけ、少人数ながらも毎回大いに盛り上がり、事業団研修での思い出や近況を語り合っています。

また、宮山福会（みやふ

くかい）という会もあります。私自身参加させて頂いたことはありませんが、この会は、宮城県、山形県、福島県のほか近隣の事業団研修OBによる伝統あるもので、錚々たる顔ぶれであると聞いております。過去の「研修みずのわ」には、各県の温泉旅館に集合する楽しい様子に掲載されておりました。機会があれば私も参加し、事業団研修を通じた新たな「わ」に加わらせて頂ければと思つてお

ます。

中、日本下水道事業団研修センターにおかれましては、少人数で研修を実施するなど苦労されていると聞いておりま



同部屋の仲間の結婚式にて

す。しかしながら、この逆境に負けない人材の育成し、新たな「縁」のつながりを生み続けるのも日本下水道事業団研修センターであると期待しております。最後になりますが、日本下水道事業団研修センターの益々のご発展と研修生皆様のご健勝を心より祈念申し上げます。

宮島と思い育む 交流会について

広島県廿日市市水道局

局長 川本 秀春

(H元年度生)



私は、広島県廿日市市水道局長の川本と申します。

この度、日本下水道事業団、渡邊先生から、「研修みずのわ」への寄稿依頼があり、お受けしたところで

す。また、先生からは、「宮島の町並み」のテーマをいただきました。太古から「神の島」として崇められ、多島美の瀬戸内海に浮かぶ「宮島」は広島市の西隣の

廿日市市でございます。それでは、宮島の歴史を少しだけご紹介させていただきます。宮島の市街地は、厳島神社を中心に繁栄した門前町には伝統的町家が連続しており、社寺など歴史的景観が今でも存在します。地域の生活文化とこの町並みを将来に継承していくため、令和元年6月、伝統的建造物群保存地区を指定したところでございます。

宮島の文化・歴史は、厳島神社の創建により始まり、社殿は飛鳥時代593年に現在の場所に建てられたそうです。その後、平安時代に栄華を極めた平清盛

が1168年頃には現在の
 ような規模の海上社殿を造
 営したとされています。そ
 して、町家から移動して、
 厳島神社の回廊から見える
 宮島のシンボルといえ、
 朱塗りの大鳥居です。満潮
 時には海中に浮ぶが如く、
 干潮では砂浜に聳え立ち、
 優雅で雄大です。この大鳥
 居は清盛造営の時代から神
 社と共にあり、これまで何
 度も再建されています。現
 在の鳥居に使用する巨木探
 しに20年を費やしたともい
 われており、明治8年に再
 建されたもので8代目とな
 るそうです。

さて、現在、この大鳥居
 の大規模修理が令和元年6
 月から始まっていることを
 ご存じの方もいらっしゃる
 と思います。1950年
 の「昭和の大修理」から
 145年を経過しており、
 この度は、屋根の葺き替え、
 塗り替え、木部の補修です。
 慎重な調査と最適工法の検
 討、腐食による劣化が予想

以上であることから完成時
 期は未定となっております。
 今は、生涯二度とない貴重
 な時期に遭遇しているとも
 いえます。ここで改めて昔
 の技術や建造の経緯、修復
 の技法に触れることも大変
 興味深いと思います。事例
 を一つだけ紹介します。鳥
 居は自重で砂浜に自立して
 おりますが、その秘密は地
 盤の「千本杭」です。この



「シートに覆われた大鳥居」令和2年11月末撮影



中央は原田副市長、左端は井上係長（実施設計（管きよ設計Ⅱ）の講師を務める）、右端が筆者

工法の概要については、紙
 面では解説が難しいので、
 どうぞ宮島にお越しいただ
 き、歴史民俗資料館の展示
 写真や解説をご覧くださいだ
 きたいと思います。

宮島におけるリニューア
 ルは鳥居だけではなく、島
 内の下水処理場、水道施設
 の配水池、上下水道管路、
 廃棄物の中継施設など直近
 の5か年で、大規模な長寿
 命化対策、再構築を進めて
 まいりました。特筆すべき
 は、島内には様々な法的規
 制や厳しい施工条件をクリ
 アしながらの環境配慮型の
 インフラ整備は困難性を極
 めております。

これからも、数十年のサ
 イクルで修繕を繰り返しま
 ながら、インフラの機能を次
 世代につなぐ現代の我々の
 使命の大きさを、雄大な姿
 を後世につなぐ「大鳥居」
 の大修理に重ねて感じてい
 るところです。

技術の継承は、ひとから
 人へ、個人から組織へ、そ

して理論から実践へと広が
 ることが大切です。このこ
 とは、「みずのわ」の、つ
 ながる」と重なり合うとこ
 ろがあります。

渡邊先生との出会いか
 ら、下水道談話で様々な人
 と縁がつながり、仕事を離
 れても楽しい有意義な時間
 が時折、飲み会として訪れ
 ます。皆様に深く感謝して
 おります。

結びに、下水道事業団の
 ますますの発展と各分野で
 ご活躍されている皆様のご
 健勝をお祈り申し上げます。



「山口みずのわ会」

山口県防府市

土木都市建設部長

友景 康浩

(H19年度生)



山口県防府市は、新市長、池田豊市長が考案した観光ポスターで、地元PRを進めています。ポスターを見た人に、数字の謎解きで注目を集める、そんなねらいがあります。

平成19年6月18日から始まった管きよ設計Ⅱ、渡邊コース、総勢は16名。幹事を命じられた私は、当時46才、若手研修生の能力に翻弄されつつ、副幹事川口市役所池田さんのお力

添えもあり、なんとか3週間を乗り切りました。

都内の建設現場などを視察した後の、サッポロビール園焼肉パーティーは、楽しかった。

コースが充実したカリキュラムとして構成できているのは、渡邊教授のご尽力によるものでありまして、外部講師の方々、建設工事の受発注者の方々の協議を、年間を通じて行っていたいただいたおかげであります。

私には、何よりも、渡邊教授との出会いが、今の私の人生に活かされています。

思い出の写真を送ります。

す。「現場視察」、「ビール園」と「卒業謝恩会」です。何枚掲載できるかたのしみです。

お名残り惜しい3週間が終わり、各地へ帰省された研修生のみなさんへと、田舎ものの、お登りさんの私が出した手紙を掲載します。

(研修生の皆様)

〇〇〇〇様へ

研修センターから、皆がだんだん帰って行き、そして副幹事池田さんと私も帰ることとなりました。渡邊教授には最後の一人まで、見送っていただいたのであります。その後、私は池田さんに都内を案内していただきました。夜の東京は、どこもカッパルばかり。そんな中、池田さんと二人で観覧車に乗っちゃいました。

池田さんと別れ、私は都内のホテルで1泊、実は、ホテルで風呂上りのビール

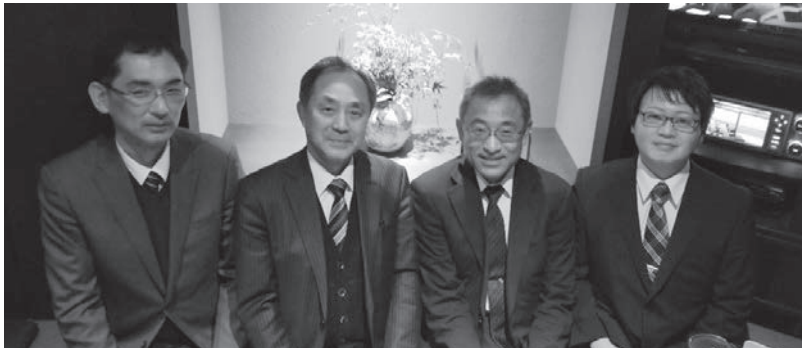
<p>これは、すごいぞ!</p> <p>1</p> <p>防府天満宮</p> <p>日本で最初に創建された天満宮</p>	<p>これは、すごいぞ!</p> <p>100</p> <p>寺防周</p> <p>天平創建期と同じ場所に建つ古刹</p>	<p>これは、すごいぞ!</p> <p>25,000</p> <p>毛利氏庭園</p> <p>国指定名勝</p> <p>丘あり、滝あり、せせらぎあり 起伏に富んだ広大な日本庭園</p>	<p>これは、すごいぞ!</p> <p>4,000</p> <p>阿弥陀寺</p> <p>東大寺別院</p> <p>心やすらぐ「西のあじさい寺」</p>
---	--	---	---

2本(500mL×2本) 一気に飲みで、バタンキュー、爆睡しちゃいました、翌朝チェックアウトの時間を過ぎて起きて来ない私に業を煮やして、フロントからの電話が鳴ったのが10時30分。「私は12時05分の飛行機に乗るんだあ〜」て慌てても遅し、「とにかく空港へ、出発30分前までに着かなくっちゃ」ってタクシーに乗り浜松町のモノレール駅へ、「残りのおみやげなんかもう買う時間無いや〜」、時計はもうすぐ11時になるうとしている。浜松町のビルの中、とにかく全力疾走、案内表示見ながら、「モノレール」「モノレール」「モノレール」言いながら、着いた〜っ、モノレール改札口。次の出発は、空港直通11時00分発。あと1分、間に合った。それよりも「モノレールで空港までどのぐらい時間かかるの?」、神様〜、仏様〜、間に合ってください。到

着、今の時間11時20分、S u i k a 精算、そんな場合じゃね〜。空港は、広すぎるぜ〜、俺はどこへ行けばいいの〜、出発ロビーは2F、ここは地下1階、全力疾走、エスカレーター右側1段飛ばし、昨晚のビルが応えるぜ〜。見えたぞ、JAL国内線搭乗手続きカウンター、いや俺はネットで購入したからカウンターじゃね〜、しかし自動券売機なんぞ初めてだぜ、なに「ネット購入時に手続きされたキャッシュカードを挿入してください」だと、たしか、そのカードは財布に入れてるはず、あとは、荷物と一緒に事業団から送ってしまったぜ。お願いだ、神様〜、仏様〜、財布様〜、俺のJCBキャッシュカード持つてるかい、あった。搭乗券には、10分前までに搭乗口へお越しくださいと印刷されていた。ラッキー、おみやげタイムをギリギリまで使うぞ。そんな



卒業謝恩パーティーにて、渡邊教授(当時)へドラえもんネクタイをプレゼントしたところ、お子様の七五三のお祝い行事に役立てていただいたとのことでした。



山口みずのわ会 令和2年2月17日

こんなで予定以上のおみやげを、あれやこれやと買いました。試食のお姉さんが綺麗だったし、羽田限定チーズケーキもおいしかったから。

予定ギリギリで、手荷物検査、チェックOK、え〜と7番搭乗口はと、え〜とつ、ここから400m先、全力疾走、動く歩道の右側を400m走、昨晚のビールが応えるぜ〜、さっき買い過ぎたおみやげが、もつと応えるぜ〜、神様〜、仏様〜、動く歩道様〜、どうか守ってください、私のチーズケーキが潰れない様に。

汗だくの私は、満員の機内で、隣のお客さんに申し訳なく座ってました。だつて、慌てて昨日の下着をそのまま着ちゃったみたいで、シャツもパンツも汗クサ〜。おまけに今汗だく〜、からだ全体熱気でポツポツ。

いやはや、なんとも、ドタバタで締めくくった事業団研修でした。山口の空港には妻がポツンと、ひとりで来てました。子供たちは皆クラブ活動中です。月曜日から、気持ち元に戻して仕事に頑張ります。しかし、まじめな顔してても頭の中には、楽しい思い出の場面が、つぎつぎと出て来るんでしょうね。

「福岡みずのわ会」

福岡県福岡市道路下水道局建設部

中部下水道課

田知行 さなえ

(R元年度生)



この度、研修会報「みずのわ」寄稿させていただくことを大変光栄に思います。

「福岡みずのわ会」からは度々この「みずのわ」に寄稿させていただいておりますが、改めて福岡の紹介を兼ねて、福岡にゆかりのある戦国武将・黒田官兵衛についてご紹介させていただきます。戦国時代に豊臣秀吉に仕え参謀として采配を振るっ

た天才軍師・黒田官兵衛ですが、福岡の礎を築いた人物でもあります。官兵衛は豊臣秀吉から命を受けて、合戦により荒廃した博多のまち（現在の福岡市博多区北西部）の復興のため、太閤町割りと呼ばれる区画整理事業で、基盤の目のような町並みを形成しました。この町並みが、現在の博多のまちの基礎になっています。また、官兵衛と息子・長政は、当時「福岡（福岡市中央区）」と呼ばれていた土地に新しい城を築き、周辺一帯を「福岡」と命名した、福岡の名付け親でもあります。

さて、そんな歴史ある黒

田官兵衛ゆかりの地・福岡から埼玉県戸田市の日本下水道事業団研修センターに向かったのは、令和元年11月になります。

平成31年4月に下水道の設計を担当する部署へ配属されたことから、令和元年度「実施設計コース管きょ設計II」を受講いたしました。研修初日の開講式の前、福岡市から参加する職員の間では慣例となっている渡邊先生へのご挨拶のため、緊張しながら渡邊先生のもとを訪ねました。その際、一緒に昼食をとりながら気さくにお話ししてくださる研修への緊張が少々和らいだことを覚えております。渡邊先生とは研修開始前の時間や研修終了後に何度もお話しさせていただきました。

約3週間の研修では、担当の青木先生をはじめとする講師の方々から業務に直結する知識を基礎から学ばせていただきながら、他の

自治体の研修生との交流を深めることができ、とても貴重な時間となりました。

研修を終え、間もなくすると渡邊先生の来福にあわせた懇親会のお誘いがありました。

この懇親会が「福岡みずのわ会」であり、先生と懇意にされていた福岡県、福岡市の3名の先輩方が開いたことが契機となり「福岡みずのわ会」の礎を築いたと伺っております。現在まで39年も続いている歴史ある「福岡みずのわ会」は、福岡県内の自治体だけではなく、お隣の佐賀県神埼市からの参加者も加えていつもは30名以上の集いがコロナ禍の影響で約半数の17名が集まり開催されました。普段の業務ではなかなか交流の機会ない方とも、研修の思い出話や下水道について語らえるとても楽しく有意義な会となりました。これからは「福岡みずのわ会」の一員として、先輩方が築

かれてきた人とのつながりと想いを受け継ぎながら、末永くこのみずのわが持続しよう微力ながら尽力したいと思っております。

最後になりますが、新型コロナウイルス感染症の影響により未曾有の事態となっておりますが、このよ

うな状況のなか、感染症対策徹底のもと研修実施にご尽力いただいている日本下水道事業団研修センターのみなさまへ感謝申し上げますとともに、研修生のみなさまのご健康とご活躍をお祈り申し上げます。



「福岡みずのわ会」(令和2年2月25日)

「みずのわ熊本会」

熊本県熊本市上下水道局計画整備部

下水道整備課主任技師

中山 哲真

(R元年度生)



熊本市上下水道局 下水道整備課の中山と申します。この度は、渡邊良彦特任教授から直々に「研修みずのわ」の寄稿依頼をいただき、大変光栄に思っています。ありがたく引き受けさせていただきました。

今回は、渡邊先生の好物である熊本銘菓「朝鮮飴」にゆかりのある熊本の偉人「加藤清正」について紹介させていただけようと思えます。実は作られた当初は「長

生飴」と呼ばれていましたが、豊臣秀吉の朝鮮出兵の際に当時の熊本藩主である加藤清正が兵糧として持ち込み、兵士達の英気を養うのにおおいに役立ったことから、「朝鮮飴」と呼ばれるようになったそうです。上品な甘さと、もちもちとした食感の和菓子で、渡邊先生の元気の秘訣？である朝鮮飴を是非一度ご賞味ください。

清正といえば、領内の土木・治水事業に力を注いだことから「土木の神様」と呼ばれています。熊本は、阿蘇火山噴火の影響から大量の火山灰が降り積もり、水が浸透しやすい土壌と



開講式記念写真



施設研修後の懇親会 (ロイヤルパインズホテル浦和)



なっています。そこへ清正が水田を開いたため、大量の水が地下へも供給されました。熊本県の土壌に清正の努力が加わったことで、水道水源を全て地下水でまかなう、世界でも珍しい地下水都市・熊本が誕生したと言われています。

また、「築城の名手」とも言われており、城下町の面影を残す熊本市内中心部には、清正が築城した日本三大名城の一つである熊本城がどっしりと構えています。2016年4月に起きた熊本地震では、天守閣や石垣、重要文化財建造物などの多くが被害を受けましたが、現在は、約20年の期間をかけて復旧を目指しており、被災状況や復旧工事の進捗を間近で見学できる特別公開を開始しています。コロナ禍でなかなか難しいかもしれませんが、今しか見られない熊本城の姿を、ぜひ多くの方に見ていただきたいと思っています。

ここからがJ S研修についてですが、私は令和元年度に下水道事業団研修の「実施設計コース管きょ設計I」に参加させていただきました。水道部門から下水道整備課へ配属された直後であったため、現場踏査から設計図・数量計算書作成、積算演習といった一連の設計積算業務の基礎をしっかりと学ぶことができ、現在の業務に大変役立っています。また、他の自治体の皆さんとの共同生活は、楽しく充実しており、あつという間の2週間でした。この研修生活で繋がった輪を大切にしていきたいと思っています。いつか、下水道展や下水道職員健康駅伝大会（応援専門です笑）などのイベントで逢うのを楽しみにしています。

熊本県内では、毎年恒例の「みずのわ熊本会2020」を令和2年3月に開催を予定していました。しかしながら、コロナ

禍のため残念ではありましたが、中止としました。毎年、みずのわ熊本会には渡邊先生をはじめ、県内の下水道事業団研修の卒業生が集まり、先生を囲んで盛大に執り行われています。また、この「みずのわ熊本会」は、先生だけではなく、他自治体の方々も年に1回はあります。情報交換の場として非常に大切な会であると感じております。渡邊先生がおっしゃられている、みずのわのように広がる横のつながりが大切であるということに改めて認識できる会であります。

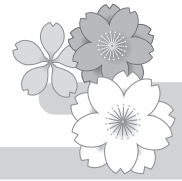
次回、渡邊先生が来熊された際には、改めて「リベンジみずのわ熊本会」を段取り致します。これからの渡邊先生が言われます「一期一会、人は宝成り」を大切にし、これからも「みずのわ熊本会」を継続していきたいと思っております。



※コロナ以前に結婚式を挙げることができました！



※復興中の熊本城をバックに撮りました！



歴史探訪

第一弾

古都 奈良大和路を訪ねて

みずのわのつながりで
かしはらしへ

橿原市では、本市に所縁があり大都市圏で御活躍されている方を中心に観光PR大使をお願いしているところです。各大使には本市の観光地をAR動画で再生できる名刺を諸所で配ってもらうことなどで本市のPRの一翼を担っていただいております。渡邊先生には、大使の中でも一番多く名刺や観光パンフレットを配布くださり、また研修生の方々にも本市を紹介していただくなど、大変お世話になっているところです。今

回の寄稿も先生のお声掛けで実現し、心より感謝申し上げます。橿原市は、奈良県の中央に位置し、古来、交通の要衝として栄えてきました。藤原京から平城京に続く「下ツ道」と大陸からの文化・技術を飛鳥へと運んだ「横大路」が交わる「八木札ノ辻」は日本最初の国道交差点と言われていきます。この横大路は中世になると大阪から伊勢神宮へとお参りされる伊勢街道として大いに賑わいました。また、橿原市は吉野が



かしはらし
奈良県橿原市魅力創造部
副部長 細川 長人

ある紀伊山地の玄関口にもあたり、長い歴史や自然の豊かさを感じることもできるまちでもあります。そんな橿原市では是非とも訪れていただきたいのは橿原神宮です。広大な神域を誇り、奈良県下で最も初詣の参拝者が多く、正月三ヶ日で100万人以上の方が参拝されます。御祭神は、記紀に畝傍山の東南の麓、橿原宮で即位されたと記されている第一代神武天皇です。橿原神宮の北側に隣接する神武天皇陵と

もに皇室の尊崇も厚く、令和への改元時に注目されたのは記憶に新しいところ です。

次にお薦めするのは今井町です。全国最大の重要伝統的建造物群保存地区であり、東西約600m、南北約310mの域内に江戸時代の町屋が500軒以上も残っています。このような昔ながらの町に今なお千人もの住民が実際に生活されていることから「奇跡の町」とも言われています。今井町には重要文化財が9件、県・市の指定文化財が8件あり、その時代劇のセットのような町並みを背景に多くの映画、ドラマやCM等が撮られています。3月12日に公開される映画「すくってごらん」もその一つです。この映画を見ていただくと、タイムスリップしたような感覚を感じられると思います。最近では町の雰囲気合ったCaféもたくさんオープンしていますので、若い人達の来訪も増えています。そしてもう一つは、今回の「研修みずのわ」の表紙にも取り上げてい

ただきました藤原京です。日本最古にして最大の都城であり、大宝律令が制定され、貨幣が発行されました。日本の基礎が築き上げられたのが藤原京時代です。日本という国号が使われ始めたのもこの時です。今は地元の方々により、季節の移り変わりを感ぜられる花々が植えられ、市民



橿原神宮

や旅行客を楽しませてくれます。また橿原を中心とする奈良県の中南部には、数多くの歴史的な遺産や名所がございます。橿原からは飛鳥や宇陀、吉野、高野山方面の観光にも非常に便利です。皆さまには一度、家族や友人、そして同僚とともに是非とも訪れて頂きたいと思ひます。



今井町の町並み

研修センター職員紹介



加藤 壮一

【教授】

専門	担当コース
事務	経営

下水道経営の諸課題は一層深化しています。是非当研修に積極的にご参加いただき、適正な事務執行をしていただけるようお願いしております。



高村 和典

【次長兼研修企画課長】

専門	担当コース
土木	計画設計、 官民連携・国際展開

ニーズを把握し、新しい情報を的確にお伝えできるよう様々な手法による研修の企画、立案に努めます。



渡邊 良彦

【特任教授】

専門	担当コース
土木	実施設計 工事監督管理

「新型コロナウイルス」の事態収束の兆しが見えない中での研修実施となりましたが、私は、コロナに負けない健康管理に努め、いつも「一期一会」を大切に皆様をお迎えしております。また、3期目となる令和2年4月1日から令和4年3月31日まで、奈良県橿原市観光PR大使として、広報活動の一端をご協力させていただいております。



青木 実

【教授】

専門	担当コース
土木	実施設計 工事監督管理

皆様と一緒に良い研修成果が出るようにしますので、宜しく願いいたします。



佐々木 俊之

【教授兼経営企画部調査役(出納)】

専門	担当コース
事務	実施設計、維持管理 における法律教科

技術職の皆さんの視点から有意義となることを心掛けています。



本多 大

【教授兼専門幹】

専門	担当コース
土木	計画設計

下水道生活も35年を経過しましたが、日々勉強の毎日です。下水道事業はたくさんの課題を抱えています。一緒に学び、解決に向けて歩き出しましょう。



長澤 不二夫

【専任講師】

専門	担当コース
土木	実施設計 工事監督管理

皆さんと共に下水道事業を通じて元気な日本を築きませんか。「克己復礼」の言葉を知り、改めて日本人に生まれたことに感謝し、これからの人生は「礼」に則して楽しみたいと願っています。



伊藤 教男

【教授】

専門	担当コース
設備 (機械)	実施設計 維持管理

コロナ禍ですが、感染予防対策を行い研修実施中です。戸田へ来ることに不安もあるかも知れませんが、JS研修でスキルアップを共に行いましょう。



大鹿 純一

【専任講師】

専門	担当コース
設備 (電気)	実施設計 維持管理

経験考学を活かした講義をしたいと思えます。共に下水道の維持管理を！



行方 馨

【准教授】

専門	担当コース
土木	実施設計 維持管理

受講される皆様の一助になれるよう、頑張っていきたいと思えます。



青島 健志

【研修企画課副参事】

専門	担当コース
事務	実施設計における 法律教科

研修後の業務に少しでもお役立ていただけるように精一杯頑張ります。研修センターでお待ちしております。



栗田 毅

【専任講師】

専門	担当コース
水質	維持管理

いっしょに、べんきょうませう。

日本下水道事業団研修センターの新型コロナウイルス感染拡大予防対策について

日本下水道事業団研修センターにおきまして、研修生の皆様が研修期間中、安心・安全にお過ごしいただくために、新型コロナウイルス感染防止策を講じておりますので、そのご紹介をいたします。

1. 施設内について

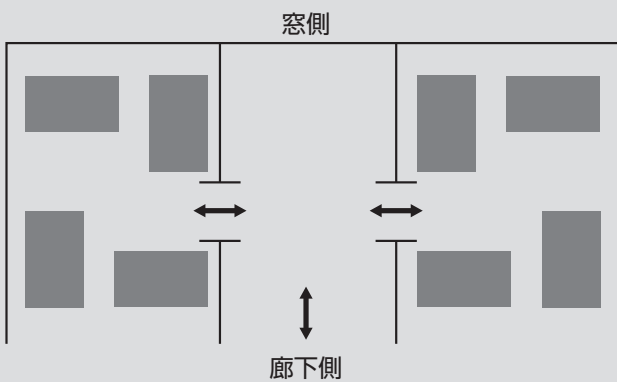
- ・施設内パブリックスペース（エレベーターフロア、研修室入口、食堂入口等）に消毒液を設置しています。
- ・施設内各所（エレベーターボタン、ドアノブ等）の高頻度接触部位の定期的な拭き取り清掃、消毒を実施しています。（なお、エレベータの表示ボタンにはカバーを貼っています。）
- ・研修センター職員、下水道事業支援センター職員、委託業務全スタッフ及び施工中の建設工事関係者にマスクの着用を義務付けております。

2. 研修室について

- ・研修室の収容人数は、教室定数の2分の1を限度としています。
- ※収容人数の不足を補うため、必要に応じて講堂を教室として使用しています。（収容人数 最大値40名）

3. 寮室（宿泊室）について

- ・コース開始前の設営時及びコース終了後に研修室の机・椅子の拭き取り清掃・消毒を実施しています。
- ・研修期間中の定期的なドアノブの拭き取り清掃や消毒を実施しています。
- ・マイク、ホワイトボード・マーカー、指し棒、講師用のパソコン等の研修用備品は、定期的な消毒を実施しています。（なお、PCのキーボードには抗菌カバーを貼っています。）
- ・教室は、窓を開けて換気を行い、またサーキュレーター、扇風機等の設置により、室内はより良い環境となっております。
- ・寮室の密を回避するため8人部屋に2室ある寢室に各1名の収容としています。
- ・コース開始前及びコース終了後に机・椅子の拭き取り・消毒を実施しています。



- ・コース開始前及びコース終了後にベッド、ロッカーの拭き取り・消毒を実施しています。
- ・寮室入口ドアノブの定期的な拭き取り・清掃を実施しています。

4. 談話室、体育室、喫煙室の使用禁止

- ・密な状態を避けるため談話室・喫煙室・体育室等の使用を禁止しています。

7. 研修生への依頼事項について

〔持参品〕

- ・マスク（不織布等）の持参（予備のマスクを含む）、マスク回収用のごみ袋、体温計、歯磨き用コップ（洗面所で使用）等

※所内の共用部分には、アルコール消毒液を用意しています。

〔研修期間中（授業中、寮生活において）〕

- ・マスクの着用の上の受講。
- ・こまめな手洗い・うがいの励行や入室時の手指のアルコール消毒、室内での咳エチケット（ティッシュなどで鼻と口を覆うなど）などの感染予防策
- ・講義室等での、マスクを外しての会話、文具の貸し借り、紙名刺の交換を控える。
- ・予め体調について確認の上、発熱、風邪の症状があるなど体調に不安がある場合には受講を控えてもらう。

8. 研修講師への依頼事項について

- ・講義日の3日前からの検温を依頼。
- ・下記に該当する場合はJSCコース担当まで連絡を依頼。
- ・検温時、37.5℃以上の発熱が確認された場合。
- ・「咳」、「咽頭痛」の症状がある。

・新型コロナウイルス感染症陽性者との濃厚接触がある場合。

・同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合。

・講師が、当日研修センター到着時に検温を実施。

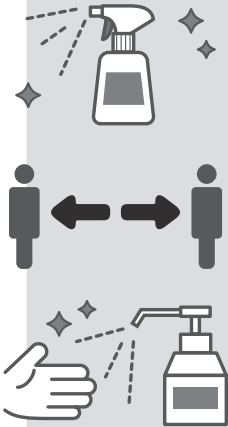
・講義中において、マスクの着用又はフェイスシールド及び飛沫防止のクリアマスクの着用依頼（教壇では、クリアマスク着用のみでも可）

9. 所轄保健所との連携について

- ・対応策の随時確認し適切な対応をいたします。
- ・所轄保健所との状況確認と指導を仰ぎます。
- ・体調不良者が出た場合は保健所に連絡、連携を取り指示を仰ぎます。

6. 食事について

- ・研修期間中の食事は、食堂の指定した席でお願いしています。
- ・朝食・昼食・夕食ともに個別盛り（定食）スタイルにて提供しています。
- ・ホールスタッフはマスク・手袋等を着用しています。
- ・窓をあけて換気を行い、扇風機等で循環しています。





令和3年度JS研修センター 研修計画調査等の集計結果について

研修センター 研修企画課

毎年、地方公共団体・下水道公社等の皆様に研修に関する調査を実施させていただき、研修人員の把握と皆様のご意見を研修に反映させるため研修アンケートを実施しております。昨年9月に発送・ご回答いただきました、令和3年度JS研修センター研修計画調査等の集計結果についてご報告させていただきます。全国2,219団体に調査を依頼し、428団体よりご回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。

1. JS研修への参加の有無について

戸田研修933名、地方研修426名（経営セミナー…375名、維持管理セミナー…51名）の参加希望のご回答をいただきました。
ご希望通りに受講できるよう、企画調整・実施に努めてまいりますので、よろしくお願いたします。

2. 実施を希望される研修について

「耐水化計画策定業務」、「企業会計 初めての予算書・決算書作成」や「事故事例研修」など幅広いご意見をいただきました。すでに実施している内容もごさいますが、希望される研修が実施予定の研修の中で反映できよう努めてまいります。

3. JS研修の受講による人材育成への効果について

JS研修の受講が人材育成を行う上での効果について、回答428団体のうち263団体より「役に立った」、「少し役に立った」とのご回答をいただき、「役に立たなかった」との回答はありませんでした。
今後もお役に立てる研修内容・実施に努めてまいります。

4. 新型コロナウイルス感染症防止による研修センター以外（外部施設）での研修の開催について

回答結果は以下のとおりでございます。

戸田での開催が望ましい	65件
外部での開催が望ましい	35件
いずれでも構わない	239件

新型コロナウイルス感染症防止のため、研修内容に応じた会場での研修実施を検討して参りますが、ご不便をお掛けいたしますが、ご理解ご協力のほどよろしくお願いたします。

**5. 新型コロナウイルス感染防止による
戸田・地方研修におけるオンライン研修の
導入について**

回答結果は以下のとおりでございます。

① 戸田研修
(長期研修 研修センターで
実施)

①集合研修が望ましい	97件
②オンライン研修が望ましい	54件
③いずれでも構わない	168件
④その他	11件

② 地方研修
(短期研修 外部の会議室等
で実施)

①集合研修が望ましい	65件
②オンライン研修が望ましい	56件
③いずれでも構わない	191件
④その他	6件



**6. 使用可能な
オンライン会議用
ソフトについて**

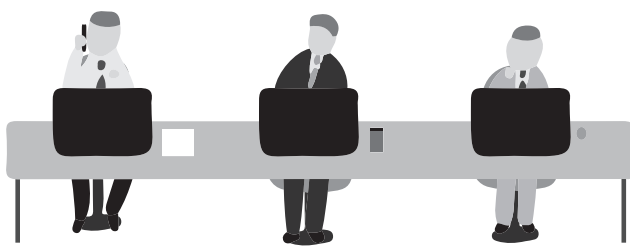
回答結果は以下のとおりでございます。

Microsoft Teams	Facebook Messenger	Google Hangouts	LINE
96件	6件	13件	6件

Skype	Zoom	WebEx Meetings	その他
63件	211件	106件	30件

**7. その他ご要望に
ついて**

「オンライン講義の充実」、「国の施策に合わせた研修」、「短期研修（1～3日）の実施」、などのご意見をいただきました。研修の内容・質を確保しつつ、ニーズにあった対応をしてみたいと考えておりますので、ご理解・ご鞭撻をお願いいたします。



5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
18 ■ 21									
	25 ■								
		22 ■ 25				26 ■ 29			
								20 ■ 21	
			2 ■ 5						
		13 ■							
	7 ■ 8			21 ■ 22					
			31 ■ 3				14 ■ 17		
					14 ■ 15				
					13 ■ 15				7 ■ 9
					20 ■ 22				
					4 ■ 7				
10 ■ 14									
	15 ■ 18								
						9 ■ 12			
							7 ■ 10		
							20 ■ 23		
									15 ■ 18
19 ■ 4									
	28 ■ 9			6 ■ 17			13 ■ 24	24 ■ 4	
	9 ■ 25			1 ■ 17	29 ■ 15		24 ■ 10	19 ■ 4	
		12 ■ 21				4 ■ 12			
		26 ■ 30							
					25 ■ 29				
				27 ■ 1					
1 ■ 4									
	12 ■ 16								
					18 ■ 29				
						16 ■ 19			
					12 ■ 15				
									8 ■ 10
	22 ■ 2								
	5 ■ 16						29 ■ 10		
									14 ■ 18
1 ■ 4									
					28 ■ 8			11 ■ 21	
					4 ■ 8			17 ■ 21	
			18 ■ 27				10 ■ 19		
		19 ■ 21							
									20 ■
					20 ■ 29				
							13 ■ 17		
			25 ■ 3						
25 ■ 26									
27 ■ 28									
	1 ■ 2								
				9 ■ 10					
			30 ■ 2						
						30 ■ 1			
									10 ■

5. 各専攻とも申込者が10名を下回る場合には、開催しない場合がありますので予めご了承下さい。
 6. 「処理場管理 I (実習編)」は、平成30年度、令和元年度に「処理場管理 I (講義編)」を受講された研修生のみが対象となります。
 7. 記載の金額については、すべて税込み価格です。

令和3年度 研修実施計画

コース	専攻名	官民区分	クラス	研修会場	宿泊先	研修期間	研修回数	受講料(円)
計画設計	下水道事業入門	官	初級	戸田	戸田	4	1	130,600
	●※下水道入門(オンライン研修)	官民	初級	PC	無し	1	2	27,500
	下水道事業の計画の策定・見直し	官	中級	外部	外部	4	2	130,600
	●下水道による浸水対策	官	中級	外部	外部	2	1	60,700
	総合的な雨水対策	官	中級	戸田	戸田	4	1	130,600
	浸水シミュレーション演習	官	特別	戸田	無し	1	1	30,400
	アセットマネジメント・ストックマネジメント(入門編)	官	初級	戸田	戸田	2	2	60,700
	アセットマネジメント・ストックマネジメント(実務編)	官	特別	外部	外部	4	2	130,600
	事務・技術「共に考える」持続的下水道経営	官	中級	外部	外部	2	1	60,700
	下水道事業の広域化・共同化	官	特別	戸田	戸田	3	1	119,000
	下水道事業における危機管理と災害対策	官	特別	戸田	戸田	3	1	119,000
●技術者のための企業会計一財務諸表活用法一	官	初級	外部	外部	3	1	119,000	
経営	下水道の経営	官	中級	戸田	外部	4	1	130,600
	企業会計一移行の準備と手続き一	官	中級	戸田	戸田	5	1	142,300
	消費税	官	中級	戸田	戸田	4	1	130,600
	下水道使用料	官	中級	戸田	外部	4	1	130,600
	受益者負担金	官	中級	戸田	外部	4	1	130,600
	滞納対策	官	特別	戸田	戸田	4	1	130,600
	接続・水洗化促進と情報公開	官	中級	戸田	戸田	4	1	130,600
実施設計	管きよ基礎	官	初級	戸田	戸田	17	1	226,200
	管きよ設計Ⅰ	官	初級	戸田	戸田	12	4	198,400
	管きよ設計Ⅱ	官	中級(指)	戸田	戸田	17	5	226,200
	推進工法	官	中級	戸田	戸田	10	2	177,300
	管更生の設計と施工管理(第1回)	官	中級	戸田	戸田	5	1	142,300
	管更生の設計と施工管理(第2回)	官	中級	外部	外部	5	1	142,300
	設計照査(会計検査)	官	中級	外部	外部	5	1	142,300
	排水設備工事の実務	官	特別	外部	外部	4	1	130,600
	処理場設計Ⅰ	官	初級	外部	外部	5	1	142,300
	処理場設計Ⅱ	官	中級(指)	戸田	戸田	12	1	198,400
	処理場設備の設計(機械設備)	官	中級	外部	外部	4	1	130,600
	処理場設備の設計(電気設備)	官	中級	外部	外部	4	1	130,600
設備の改築更新	官	中級	戸田	戸田	3	1	119,000	
工事監督管理	工事管理	官	中級(指)	戸田	戸田	11	1	189,000
維持管理	管きよの維持管理	官	初級	戸田	戸田	12	2	189,000
	管きよの点検・調査	官	特別	戸田	戸田	5	1	142,300
	処理場管理の基礎	官	初級	戸田	戸田	4	1	130,600
	処理場管理Ⅰ	官	初級	戸田	戸田	11	2	189,000
	処理場管理Ⅰ(実習編)	官	初級	戸田	戸田	5	2	58,400
	※処理場管理Ⅱ	一部官民	中級(指)	戸田	戸田	10	2	177,300
	電気設備の保守管理	官	中級	戸田	戸田	3	1	119,000
	省エネ法入門	官	初級	外部	外部	1	1	30,400
	※水質管理Ⅰ	官民	初級	戸田	戸田	10	1	177,300
	※水質管理Ⅱ	官民	中級	戸田	戸田	5	1	142,300
	事業場排水対策	官	中級	戸田	戸田	10	1	177,300
	※水処理施設の管理指標の活かし方	官民	特別	戸田	戸田	2	1	60,700
	※水質管理のトラブル対応	官民	特別	戸田	戸田	2	1	60,700
官民連携・国際展開	官民連携	官	特別	戸田	外部	2	1	60,700
	官民連携・国際展開	官	特別	戸田	外部	2	1	60,700
	効果的な包括的民間委託の導入と課題	官	中級	戸田	外部	4	1	130,600
	処理場の包括的民間委託における履行確認	官	中級	外部	外部	2	1	60,700
	●管路施設の包括的民間委託	官	特別	外部	外部	1	1	30,400

1. 受講料の他に宿泊費として1泊あたり4,500円が必要になります。なお、4,500円には食費1,770円(朝食460円・昼食570円・夕食740円)が含まれています。

2. 宿泊先が「外部」となっている専攻につきましては、受講団体様にて宿泊先の手配をお願いいたします。

3. クラス欄の初・中・特は、初級クラス・中級クラス・特別クラスを、(指)は、指定講習を示します。

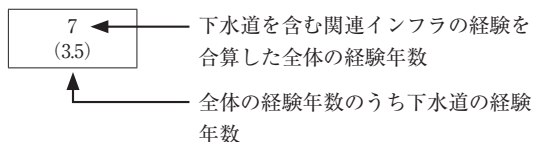
4. 「官」のコースは地方公共団体職員のみを対象、「官+民」のコースは地方公共団体職員及び民間事業者を対象としたコースです。

(なお、「処理場管理Ⅱ」専攻は、第1回が「官のみ」、第2回が「官+民」となります。)

<参考> 下水道法施行令第15条及び同第15条の3に定める資格要件

下水道法施行令第15条及び同第15条の3	(区分)		(要件)		資格取得に必要な下水道技術に関する実務経験年数 (注1)			
	卒業又は修了した学校等		卒業又は修了した学科等	履修した学科目等	計画設計 (注2)	監督管理等 (注3)		維持管理
						処理施設 ポンプ施設	排水施設	処理施設 ポンプ施設
第1号	新制大学		土木工学科、衛生工学科又はこれらに相当する課程	下水道工学	7 (3.5)	2 (1)	1 (0.5)	2 (1)
	旧制大学		土木工学科又はこれに相当する課程	—				
第2号	新制大学		土木工学科、衛生工学科又はこれらに相当する課程	下水道工学に関する学科目以外の学科目	8 (4)	3 (1.5)	1.5 (1)	3 (1.5)
第3号	短期大学		土木科又はこれに相当する課程	—	10 (5)	5 (2.5)	2.5 (1.5)	5 (2.5)
	高等専門学校							
	旧制専門学校							
第4号	新制高等学校		土木科又はこれに相当する課程	—	12 (6)	7 (3.5)	3.5 (2)	7 (3.5)
	旧制中等学校							
第5号	前4号に定める学歴のない者		—	—	—	10 (5)	5 (2.5)	10 (5)
第6号	新制大学の大学院		5年以上在学 (卒業)	下水道工学	4 (2)	0.5 (0.5)	0.5 (0.5)	0.5 (0.5)
	新制大学の大学院又は専攻科		1年以上在学	下水道工学	6 (3)	1 (0.5)	0.5 (0.5)	1 (0.5)
	旧制大学の大学院又は研究科							
	短期大学の専攻科		1年以上在学	下水道工学	9 (4.5)	4 (2)	2 (1)	4 (2)
	国土建設学院等		上下水道工学科	—	10 (5)	5 (2.5)	2.5 (1.5)	—
	外国の学校		日本の学校による学歴、経験年数に準ずる。		—	—	—	—
	指定された試験		下水道管理技術認定試験 (処理施設)		—	—	—	2 (1)
	指定講習	日本下水道事業団	下水道の設計又は工事の監督管理資格者講習会		—	5 (2.5)	2.5 (1.5)	—
下水道維持管理資格者講習会			—	—	—	5 (2.5)		
第7号	日本下水道事業団法施行令第4条第1項に定める技術検定		第1種技術検定合格	—	5 (1.5)	2 (0.5)	1 (0)	—
			第2種技術検定合格	—	—	2 (0.5)	1 (0)	—
			第3種技術検定合格	—	—	—	—	2 (0)
第8号	技術士法による二次試験		下水道を選択科目として水道部門に合格した者	—	—	0 (0)	0 (0)	
			水質管理又は廃棄物処理を選択科目として衛生工学部門に合格した者	—	—	—	0 (0)	

(注) 1 表記例



<関連インフラ>

- ・計画設計及び実施設計・工事の監督管理の場合
～下水道、上水道、工業用水道、河川、道路
- ・維持管理の場合
～下水道、上水道、工業用水道、し尿処理施設

2 「計画設計」とは、事業計画に定めるべき事項に関する基本的な設計をいう。

3 「監督管理等」とは、実施設計 (計画設計に基づく具体的な設計) 又は工事の監督管理 (その者の責任において工事を設計図書と照合し、それが設計図書の通りに実施されているかどうかを確認する事。) をいう。

下水道技術検定及び下水道管理技術認定試験について

研修センター管理課

下水道技術検定とは

下水道法第22条において、下水道管理者（地方公共団体）は、下水道を設置・改築する場合の設計及び工事の監督管理並びに下水道の維持管理については、下水道法施行令で定める資格を有する者に行わせなければならぬとされています。

日本下水道事業団では、下水道法施行令に基づき資格取得のために必要な実務経験年数を短縮できる効果のある国土交通省令に定められた「指定講習」並びに「下水道技術検定」を実施しています。

同検定は、地方公共団体における有資格者の早期確保などを目的に創設された制度で、前述したとおり合格すると下水道法第22条の資格取得について必要とされる実務経験年数を短縮する特例が認められています。

この検定試験は、技術の内容に応じた「第1種技術検定」、「第2種技術検定」、「第3種技術検定」の3つの区分に分かれています。

なお、実務経験年数の短縮効果のほかには第3種技術検定については、平成17年2月28日付で下水道処理施設維持管理業者登録規程（昭和62年建設省告示1348号）が改正され、登録規程に基づき登録するにあたっては、第3種技術検定に合格し所定の実務経験年数を有する者を営業所ごとに置くこととするとともに、維持管理の包括的民間委託契約においては、民間事業者側に下水道法施行令第15条の3に掲げる資格を有する技術者を置き、業務に当たらせることが必要となっています（平成16年国都下管第10号下水道管理指導室長通知）。

○技術検定の区分、検定対象、試験科目、試験方法
区分、試験科目、試験の方法については、表1のとおりです。

下水道管理技術認定試験とは

認定試験は、下水道管路施設の維持管理業務に従事する技術者の技術力を公平に判定し認証することにより、管路施設維持管理の健全な発展と技術者の技術水準の向上を図り、もって下水道の適正な維持管理に資することを目的にした制度です。

○認定試験の区分、試験対象、試験科目、試験方法

区分、試験科目、試験の方法については、表2のとおりです。

表1

検定区分	検定の対象	試験科目	試験方法
下水道技術検定	第1種技術検定	下水道の計画設計を行うために必要とされる技術	多肢選択式及び記述式
	第2種技術検定	下水道の実施設計及び工事の監督管理を行うために必要とされる技術	多肢選択式
	第3種技術検定	下水道の維持管理を行うために必要とされる技術	多肢選択式

表2

試験区分	試験の対象	試験科目	試験方法
下水道管理技術認定試験	管路施設	管路施設の維持管理を適切に行うために必要とされる技術	工場排水、維持管理、安全管理及び法規 多肢選択式

下水道技術検定等の 実施内容

- ・実施期日 例年、11月前半の日曜日に実施しています（令和2年度は11月8日（日））。
 - ・実施場所 例年、全国11都市で実施しています（札幌市、仙台市、東京都、新潟市、名古屋市、大阪市、広島市、高松市、福岡市、鹿児島市及び那覇市）。
 - ・受験資格 受験資格についての制限はなく、誰でも受験できます。
 - ・その他 例年、5月中旬に試験日程や受験申込受付期間が公表されます。（令和2年度の申込受付期間は6月22日（月）から7月15日（水））。
- 申込方法については、平成29年度からインターネットを活用した電子申請システムを導入しており、便利に申込できるようになっています。

令和2年度の実施結果

第2種技術検定の受験申込者は1,118人、受検者は848人、合格者は243人となり、受検者に対する合格率は28.7%となりました。

第3種技術検定の受験申込者は5,473人、受検者は4,649人、合格者は1,536人となり、受検者に対する合格率は33.0%となりました。

下水道管理技術認定試験（管路施設）の受験申込者は1,592人、受検者は1,378人、合格者は542人となり、受検者に対する合格率は39.3%となりました。

なお、第1種技術検定の合格発表は、令和3年2月5日（金）を予定しています（受験申込者は123人、受検者は73人）。



（参考）第46回下水道技術検定及び第34回下水道管理技術認定試験合格基準一覧

試験区分		出題方式	出題数	満点	(令和2年度の) 合格基準点
下水道 技術検定	第2種	択一式	60問	60	41
	第3種	択一式	60問	60	41
認定試験	管路施設	択一式	50問	50	37

○技術検定及び
認定試験に関する
問い合わせ先

日本下水道事業団
研修センター管理課
電話048-421-
2076

次に、過去5年間の受検者数、合格者数、合格率をご案内します。（別表）

合格率をみますとハードルの高い検定試験かと思われるかもしれませんが、令和2年度の例をみますと、3割程度は間違っても合格（第3種の場合）となっております。

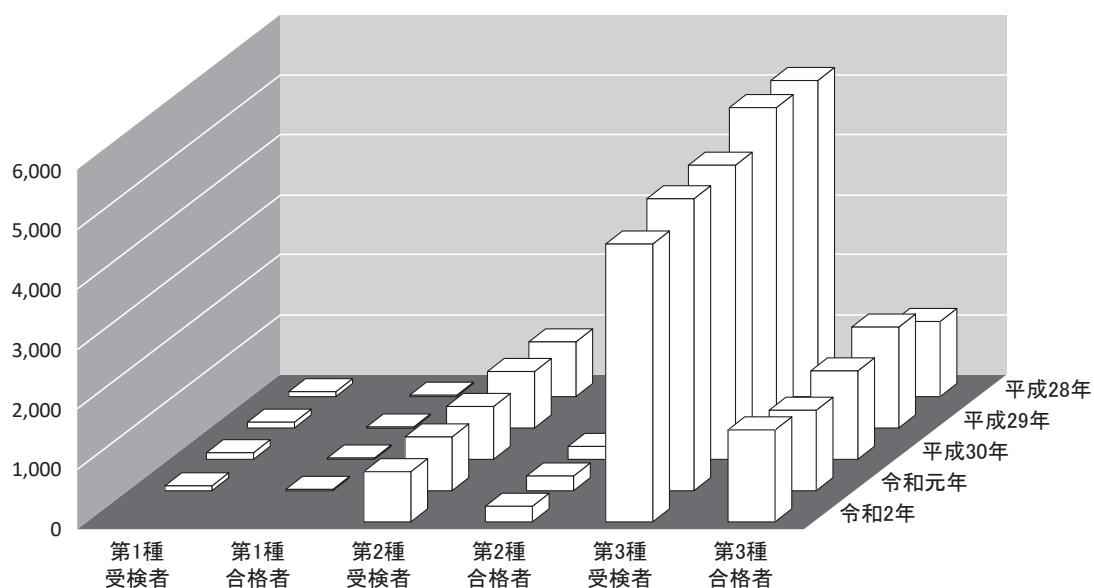
下水道業務に従事される皆様、ぜひ資格取得あるいは技術向上のために、この技術検定にチャレンジしてみませんか。



<別表>★下水道技術検定

実施年度	実施回数	第1種技術検定			第2種技術検定			第3種技術検定		
		受検者数	合格者数	合格率	受検者数	合格者数	合格率	受検者数	合格者数	合格率
平成28	42	92	13	14.1	911	247	27.1	5,271	1,248	23.7
平成29	43	100	20	20.0	943	237	25.1	5,352	1,690	31.6
平成30	44	100	16	16.0	885	212	24.0	4,910	1,480	30.1
令和元	45	65	8	12.3	882	244	27.7	4,886	1,330	27.2
令和2	46				848	243	28.7	4,649	1,536	33.0

(単位：人%)

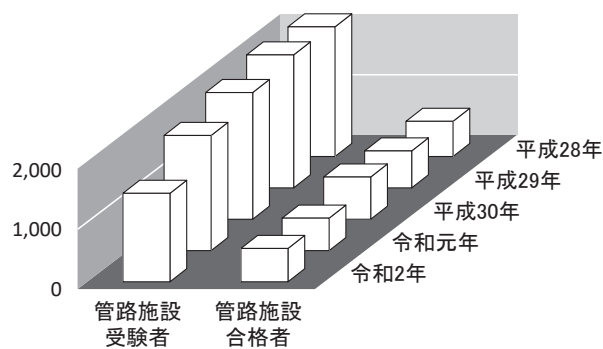


下水道技術検定

<別表>★下水道管理技術認定試験

実施年度	実施回数	管路施設		
		受験者数	合格者数	合格率
平成28	30	1,818	577	31.7
平成29	31	1,850	608	32.9
平成30	32	1,782	628	35.2
令和元	33	1,654	532	32.2
令和2	34	1,378	542	39.3

(単位：人%)



下水道管理技術認定試験

研修センターの歩み

昭和47年	11・1	下水道事業センター発足 初代研修部長 岩崎 保久就任	平成10年	7・14 8・1	第11代本部長 黒沢 宥就任 参与 内田 信一郎就任
昭和48年	2・6 5・ 12・27	研修部で研修開始 プレハブ校舎完成 試験研修本館着工	平成11年	4・1	第13代研修部長 大嶋 吉雄就任
昭和49年	1・16 12・1	研修会報（研修みずのわ）創刊 第2代研修部長 丸山 速夫就任	平成12年	6・30 7・3	研修修了生3万5千人達成 第14代研修部長 渡部 春樹就任
昭和50年	3・25 4・16 8・1	試験研修本館竣工 初代試験研修本部長 池田 一郎就任 日本下水道事業団発足 第2代本部長 岡崎 忠郎就任	平成13年	1・20 4・16	第12代本部長 中橋 芳弘就任 参与 福智 真和就任
昭和51年	3・14 8・1 11・21	第1回下水道技術検定試験実施 第3代研修部長 橋本 定雄就任 第2回検定試験実施（以後毎年11月中旬実施）	平成14年	4・1 11・1	第15代研修部長 篠田 孝就任 研修修了生4万人達成 事業団設立30周年を迎える
昭和52年	2・16 4・1	第3代本部長 上田 伯雄就任 第4代研修部長 武田 篤夫就任	平成15年	4・16 10・1	参与 色摩 勝司就任 「特殊法人整理合理化計画」に基づき、 日本下水道事業団が地方共同法人となる
昭和53年	4・1 11・16	第4代本部長 遠藤 文夫就任 常任参与 安田 靖一就任	平成16年	4・1	機構改革により「研修センター」発足 第16代研修センター所長 大嶋 篤就任
昭和54年	6・9	第5代研修部長 野端 利治就任	平成17年	4・1 8・1 10・21	第17代研修センター所長 成田 愛世就任 第13代本部長 安藤 明就任 研修生4万5千人達成
昭和55年	10・1	第5代本部長 卜部 壮一就任	平成19年	4・1 11・1	第18代研修センター所長 高島英二郎就任 事業団設立35周年を迎える
昭和56年	3・31	研修修了生（延べ）7,603人となる	平成20年	1・19 1・30	研修修了生5万人達成 研修修了生5万人達成記念行事開催
昭和57年	6・5 11・1	第6代研修部長 伊阪 重信就任 事業団設立10周年を迎える	平成21年	7・14	第19代研修センター所長 藤生 和也就任
昭和58年	4・1 8・29 11・16	常任参与 藤井 秀夫就任 研修修了生1万人達成 第6代本部長 中村 瑞夫就任	平成22年	4・1 4・22 6・10 8・3 3・11	第14代本部長 村上 孝雄就任 研修修了生5万5千人達成 本館耐震化工事着手 研修業務検討委員会設置 東日本大震災
昭和59年	4・12	試験研修本部を技術開発研修本部 に名称変更する。	平成23年	4・1	機構改革により技術開発研修本部長を廃止 し、研修・国際担当理事を設置。 初代理事 村上 孝雄就任 臨時研修「地震対策」実施
昭和60年	1・1 3・27	第7代研修部長 真船 雍夫就任 新厚生棟完成	平成24年	4・17 11・1 11・22 3・29	研修修了生60,000人達成 事業団設立40周年を迎える 臨時研修「放射能対策」実施 本館耐震化工事終了
昭和61年	10・1	第7代本部長 苦米地 行三就任	平成25年	4・1 11・1	第20代研修センター所長 藤本 裕之就任 第2代研修・国際担当理事 野村 充伸就任
昭和62年	3・31	研修修了生（延べ）14,311人となる	平成26年	4・1	第21代研修センター所長 花輪 健二就任
昭和63年	1・1 4・1	第8代研修部長 石川 廣就任 第8代本部長 千葉 武就任	平成27年	11・1	第3代研修・国際及び西日本担当理事 畑田 正憲就任
平成元年	9・1	常任参与 村上 仁就任	平成28年	4・1 7・1	第22代研修センター所長 細川 顕仁就任 研修修了生70,000人達成
平成2年	3・31 6・11	本館改修工事竣工 第9代研修部長 亀田 泰武就任	平成29年	10・4 11・1	新寮室棟基本設計着手 事業団設立45周年を迎える
平成3年	7・16 7・26	第10代研修部長 石川 忠男就任 研修修了生2万人達成	平成30年	3・16 4・1 5・22 8・21	新寮室棟基本設計完了 第23代研修センター所長 松村 弘之就任 新寮室棟詳細設計着手 研修修了生75,000人達成
平成4年	4・1 4・1 11・1	第9代本部長 清野 圭造就任 第11代研修部長 星隈 保夫就任 事業団設立20周年を迎える	令和元年	9・27 11・1 11・30	新寮室棟詳細設計完了 第4代研修・国際担当及び東日本担当理事 畑 恵介就任 新寮室棟（仮称）着工
平成5年	7・1	常任参与 北井 克彦就任	令和2年	4・1	第24代研修センター所長 水津 英則就任
平成6年	7・1 10・7	第10代本部長 小林 紘就任 研修修了生2万5千人達成			
平成7年	7・5	総合実習棟竣工			
平成8年	4・1	第12代研修部長 竹石 和夫就任			
平成9年	3・20 9・29 11・1	本館改修工事竣工 研修修了生3万人達成 事業団設立25周年を迎える			



檀原市 今井町



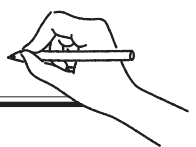
編集後記

新型コロナウイルスの収束がなかなか見えない中、感染防止の観点から研修生の定員を減らすなど最善の感染防止策を取りながらの研修となり、研修生の皆様にはご不便・ご不自由をお掛けいたしますが、研修生同士のつながりが本誌名の「みずのわ」のように途絶えることなく、今後もますます広がっていくように努めて参ります。

1日も早い終息、マスクの無い研修生の皆様の笑顔が見られることを切に願っております。

コロナ禍の大変な中、本号を発刊するにあたり、ご執筆をいただいた皆様には厚く御礼申し上げますとともに、これからも当研修センターの研修業務におきまして、ご指導・ご鞭撻のほど何卒、よろしくお願いいたします。

研修企画課
副参事 青島 健志



「みずのわ」の名前の由来

滑らかな水面に落とした一滴のしずくがつくる小さな輪が大きく広がる様から、研修生の輪が一人から全国へ、一都市から全国の都市へと大きなつながりが生まれるように、との期待を託したものです。



機関誌「研修みずのわ」 第54号

令和3年1月発行 第54号

発行 地方共同法人 日本下水道事業団 研修センター
〒335-0037 埼玉県戸田市下笹目5141
TEL 048-421-2692
FAX 048-422-3326
印刷 株式会社石井印刷